

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	教育相談論
授業コード	AI301
英語名称	Theory of Educational Counseling
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	幼児理解及び教育相談を学ぶための理論と方法は、幼児の発達と学びに関する知識を踏まえて、子どもを取り巻く環境との関係性に目を向け、子どもの育ちの背景となる時代の変化や社会からのニーズを取り込んだ柔軟なものが期待される。本講義では、幼児理解及び教育相談の理論と方法について、幼児理解を踏まえながら、教育相談の基礎となるカウンセリングの知識や方法を中心にロールプレイやグループワークなど、アクティブ・ラーニングによって体験的に学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育相談員、スクールカウンセラーとして学校現場において心理的支援に携わった経験を有している。教育の現場が抱える「いま・ここで」の課題や問題の解決に必要な知識および技術について、実際の事例を取り上げながら解説する。
到達目標	教育相談の基礎的な知識を土台に、実践への準備ができる。また教育の現場における教育相談の意義や方法について自ら考え、心理学的な視点から具体的な解決方法等を提案することができるよう学んでいく。 学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。 教育・保育現場で求められる教育相談に関する専門知識と技能を体系的に理解するとともに、教育相談の場に持ち込まれる課題や問題に関する情報を分析し、心理学的な視点を持った解決方法を実践することができる。【知識・技能】 子どもに関わる際に、周囲の方々と協働しながら、様々な教育相談に関する課題や問題を見出し、その支援・解決に取り組むことができる【使命感・思考力】 悩みを抱える子どもや保護者に共感的に接し、相談者や環境に対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に支援計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】 本科目の学びを通して、多様性のある子どもたちの育ちに対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どもやそれを支える保護者支援のための新たな方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】
計画・内容	第 1回 イン트로ダクション 教育相談とは何か 教育相談の目的と内容 第 2回 子ども理解の原則 発達の視点と生態学的理解 第 3回 子ども理解の原則 問題行動・症状の意味を探るアセスメント 第 4回 教育相談の技法 対象理解の方法 観察 面接 検査 第 5回 相談の技法 カウンセリングの基礎理論 第 6回 相談の技法 保護者との面接の進め方 技法の基礎 第 7回 臨床的問題 関係性の問題 愛着 気になる子ども 第 8回 臨床的問題 家庭の問題 育児不安 第 9回 臨床的問題 ことばの発達とコミュニケーション障害 第10回 臨床的問題 発達障害 概説 第11回 臨床的問題 発達障害 知的障害、LD等 第12回 臨床的問題 発達障害 自閉症スペクトラム 第13回 臨床的問題 発達障害 ADHD、習癖等 第14回 臨床的問題 保護者との関係 第15回 授業総括

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	アクティブラーニングも取り入れた講義形式であり，パワーポイントや映像資料など適宜活用する。
能動的な学びの実施	グループディスカッション，グループワーク，理解を深め実践に役立つロールプレイングなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め教科書の該当箇所を読み，不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し，自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	一般社団法人 日本学校教育相談学会 監修（2025）. 学校教育相談－理論と実践のガイドブック. ほんの森出版
成績評価方法と基準	定期試験（80％）＋レポート・提出物（20％）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度，コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	こども学科卒業要件科目，小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得必須科目
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 授業中課題50％と期末レポート50％で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	初等教科教育法（国語）
授業コード	AI226
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (National language)
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○国語（日本語）についての深い知識と考察を基盤に国語の授業づくりが行われること、言葉を通して先生と児童、児童と児童が関係性を形づくることから、国語（日本語）についての理解は小学校の教員にとって必須である。本授業では、学習指導要領を読み取り、国語教育についての知識及び理解を深めると同時に、自分自身が使っている日本語という言葉をつりかえりながら、国語（日本語）という言葉について理解を深めるために、チームでの話し合いや全体での考えの共有をする時間を持つ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・中学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。
到達目標	○国語科の学習指導要領では指導内容の〔知識及び技能〕と〔思考力・判断力・表現力〕として、日本語についての理解と言語能力を身につけ、他者とのやりとりのために必要な日本語運用の育成が目指されている。小学校の教員として、小学校国語科の教育内容及び国語（日本語）についての理解を深めるために、本授業での具体的な到達目標は「学習指導要領（国語）の指導内容について知る」「国語教育に求められている学びの内容を理解する」「国語（日本語）の言語の性質を知る（日本語学の知識）」「日本語学の知識を基盤に、国語の指導方法や教材活用の視点を得る」の4つとする 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 言語能力とは？ 第2回 国語科の目標 日本語を学ぶための視点 第3回 語彙指導 語彙の性質の理解（メタファとメトニミー） 第4回 情報活用能力 国語科と情報の学びの関連/情報機器と教材の活用 第5回 言語と言語文化 歴史的な視点を踏まえた言語観・テキスト観 第6回 言語と言語文化 文字と表記の歴史/書写指導（毛筆・硬筆） 第7回 話すこと・聞くこと（話し合うこと） 音声言語の特徴（話す身体と環境の相関） 第8回 書くこと/読むこと 書記言語の特徴/テキストを仕立て上げる言葉 第9回 課題実践 書写の授業づくり/指導案の書き方

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第10回 課題実践 単元計画と本時の指導/板書計画 第11回 課題発表 模擬授業 1（指導案及び教材研究の共有） 第12回 課題発表 模擬授業 2（指導案及び教材研究の共有） 第13回 課題発表 模擬授業 3（指導案及び教材研究の共有） 第14回 課題発表 模擬授業 4（指導案及び教材研究の共有） 第15回 課題発表 /課題レポート 模擬授業 5（指導案及び教材研究の共有）
授業の進め方	○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互で考えを伝え合って共有し、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと（各回約1時間相当） ○教科書である「小学校学習指導要領解説（国語編）」を何度も読み、記述内容の把握と理解をしておくこと（各回約1時間相当） ○各回テーマに該当する各教科書会社の検定教科書（こくご）の第1学年から第6学年までに目を通し、どのような教材が採用されているのかを理解すること（各回約2時間相当） 15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	教科書：小学校学習指導要領解説 国語編
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート提出30%と課題実践と発表35%、課題レポート35%で総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題実践と発表35%、課題レポート35%を総合的に評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	国語
授業コード	AI223
英語名称	National language
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	○幼児から児童（幼稚園～小学校）のそれぞれの発達段階において、国語（日本語）の力を高めることは子どもの成長にとって重要である。子どもの国語（日本語）の成長を支えるために、「創造的・論理的思考の側面」「感性・情緒の側面」「他者とのコミュニケーションの側面」を支える言語能力として、保育・教育者として必要な国語（日本語）についての知識を深める学び、コミュニケーションにおける言語運用の学びを行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。
到達目標	○保育・教育者にとって必要な国語（日本語）についての理解を深めることを目的に、適切な国語（日本語）の表現能力の獲得、国語（日本語）の性質や特徴についての知識の習得、コミュニケーションにおける言語運用についての理解、小学校への接続のための幼稚園・保育園での国語（日本語）の学びの内容を知ること为目标とする。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 国語（日本語）を知るとは？ 第2回 日本語の特徴と性質 言葉の種類 第3回 日本語の特徴と性質 言葉の変化 第4回 コミュニケーションと言葉 言葉の獲得（意味と生成） 第5回 コミュニケーションと言葉 言葉の運用（バーバル・ノンバーバルの意味づけ） 第6回 書記言語としての日本語 日本語の文字と文体の特徴 第7回 書記言語としての日本語 言葉（語彙：メタファ）について 第8回 書記言語としての日本語 「書くこと」と「読むこと」 第9回 書記言語としての日本語 文法と言葉：相手に合わせた伝え方 第10回 日本語と言語文化 自分の体験を伝える書き方：随筆/エッセイ

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第11回 日本語と言語文化 思考の見える化：マインドマッピング法 第12回 日本語と言語文化 書道の文化体験：文章要約 第13回 チーム課題実践 テーマに沿った研究論述：資料あつめ 第14回 チーム課題作成 テーマに沿った研究論述：全体構成のブラッシュアップ 第15回 まとめ 理解度の確認：まとめ思考テスト（記述形式）
授業の進め方	○各回、授業のはじめに国語（日本語）の表現力を高めるための短い文章を作成する時間をとってから、各回のテーマを展開する授業の流れとなる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと（各回約2時間） ○参考書である「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」や「小学校学習指導要領解説（国語編）」を何度も読み、各回テーマにおいて該当する記述内容の把握と理解をしておくこと（各回約2時間） 15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	○教科書：なし（授業時にプリント資料を配付） ○参考書：小学校学習指導要領解説（国語編） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
成績評価方法と基準	○授業内のチームでの話し合いへの参加とコメントシート30%、チーム課題30%、まとめ思考テスト（理解度の確認）40%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	○各回授業で作成する短い文章について、すぐれた作品を紹介し、表現技術を共有する時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題提出30%、まとめ確認テスト40%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	初等教科教育法（理科）
授業コード	AI316
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (Basic Science)
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	木村 龍平, 園山 博
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	「理科」の学習指導要領に基づき、理科の歴史・教科のねらい・指導方法・指導内容・学習指導案の作成法について扱う。また、幼稚園教育および他教科との関連を学び、地域社会ならびに自然環境を活用した指導方法について学ぶ。「理科」で取り扱う実験やフィールドワーク（自然観察等）の内容/結果から、授業計画の立て方から実験/観察器具の取り扱い、実験操作/観察方法を基に実験授業の指導案の考案方法を習得する。また、指導案を考案し模擬的な授業実践に取り組み、実践力の涵養に資する。毎回の実践後には授業内容・方法等について振り返り、授業技能の向上を目指す。 指導案の考案や授業実践ではICT機器（デジタル教科書・電子黒板・タブレット）を用いる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理科系研究者としての実務経験から、実験手技の基本を指導する（木村）。 公立高等学校教員としての実務経験を有し、学校における教科指導と児童・生徒指導の実践を教授する。（園山）。
到達目標	初等教育における理科の目標は、発達段階に相応の知的好奇心により、自然に親しみ、目的を持った観察や実験を通じて、科学的な態度を涵養することにある。この観点から授業では理科の指導に関わる学習理論や体系的支援方法を理解し、模擬的な授業実践ができる技能の習得が目標である。 科目のテーマは、理科の教材研究、学習指導案の作成、模擬的な授業実践である。「理科」の学習指導要領に基づき、理科の歴史・教科のねらい・指導方法・指導内容・学習指導案の作成法について扱う。また、幼稚園教育および他教科との関連を学び、地域社会ならびに自然環境を活用した指導方法について学ぶ。 以上について適宜、ICT機器・教材を活用できる実践力を修得する。 学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 【知識・技能】身近な動植物および教材を活用して子どもの生命や自然に対する感受性を育み、遊びと学習によって子どもの好奇心、創造力、生きる力を育むための学術的知識と実践的な活動能力を身に付ける。 【汎用的技能】児童期の子どもを対象として、命の温もり、自然の美しさ、不思議さなどを伝え、豊かな子ども文化の創造と能動的な学習および生きる力の育成に貢献するための高度な専門的知識と実践的スキルを身に付ける。 【態度・志向性】知・情・意の均整のとれた健全な人格を備え、「身近な動植物および科学技術」を豊かな子ども文化の創造と能動的な学習および生きる力の育成のために教育活用するのみならず、そのための効果的教育手法の開発を志向し実践する態度を備える。 【総合的な学習経験と創造的な思考力】未来を担う子どもたちの健全な生きる力と感受性を育み、豊かな子ども文化の創造と能動的な学習に寄与する教育的指導者をめざす。
計画・内容	第1回：オリエンテーション:全体説明 (担当教員:木村龍平)

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第2回：理科教育におけるICT機器の援用について (担当教員:木村龍平) 第3回：デジタル教科書・教材の活用方法 (担当教員:木村龍平) 第4回：理科の指導方法と評価方法、観察・実験・記録、教材研究 (担当教員:木村龍平) 第5回：理科教育とリスクマネジメント・安全教育 (担当教員:木村龍平) 第6回：授業計画案と指導1 (担当教員:木村龍平) 第7回：授業計画案と指導2 (担当教員:木村龍平) 第8回：オリエンテーション:地球・生命分野の変遷、目標と内容区分2:「地球・生命」 (担当教員:園山博) 第9回：理科の指導方法について 指導案の作成 1 目標と指導観 (担当教員:園山博) 第10回：理科の指導方法について 指導案の作成 2 単元計画 (担当教員:園山博) 第11回：理科の指導方法について 指導案の作成 3 本時の展開・板書計画 (担当教員:園山博) 第12回：指導と評価の一体化について (担当教員:園山博) 第13回：授業計画案と指導例 1 (担当教員:園山博) 第14回：授業計画案と指導例 2 (担当教員:園山博) 第15回：まとめ:指導と教材 (担当教員:園山博)
授業の進め方	指導内容を深く理解するためグループ分けのうえ、課題についてディスカッションする。
能動的な学びの実施	授業テーマに即した実践課題を提示する。適宜グループ分けのうえ、課題についてディスカッションする。
授業時間外の学修	予習:授業毎ごとに概ね2時間(合計30時間)。 復習:授業毎ごとに概ね2時間(合計30時間)。
教科書・参考書	教科書：新編新しい理科6上教師用指導書 指導編（東京書籍） 教科書：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編（文部科学省/東洋館出版社）
成績評価方法と基準	授業中に提示する小レポート50%と期末レポート50%を統合して評価する。 単位認定には第1回～7回（木村担当）における課題（指導案の考案レポート）の全提出が必要。さらに第8回～15回（園山担当）では指導案の作成が必須である。
課題等に対するフィードバック	レポート課題に関しては、適宜解説する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	初等教科教育法(生活科)は関連科目なので必ず受講すること。 10分以上の遅刻は欠席となる。遅刻×3回で欠席1となる。4回以上の欠席で自動的に不合格となる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・授業内容に応じてZoomによるリアルタイムオンライン授業、オンデマンド動画配信、課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・授業中に提示する小レポート50%と期末レポート50%を統合して評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	理科
授業コード	AI313
英語名称	Basic Science
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	木村 龍平, 園山 博
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	理科の内容区分ごとに基礎的な知識の習得と本質的な理解（理科の特質の理解）を目指す。 「生命」では、身近な動植物を対象にして「構造と機能」・「多様性と共通性」・「連続性」・「環境とのかわり」について学ぶ。「地球」では、身近なフィールドで「内部・表面・周辺」の視点から学ぶ。「エネルギー」では身近な素材から「見方」・「変換と保存」・「資源の有効利用」について学ぶ。最後に「粒子」では「存在」・「結合」・「保存性」・「エネルギー」について学ぶ。 以上について、実験や観察（フィールドワーク）を行い、初等理科教育指導に必要な観察、実験などに関する技能を身に付けて探求力を養う。以上を通して、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための指導技術を修得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理系科学者としての実務経験から、理科実験の基礎について教授する（木村）。 公立高等学校教員としての実務経験を有し、学校における教科指導と児童・生徒指導の実践を教授する。（園山）。
到達目標	本授業は、初等理科（物質・エネルギー・生命・地球）全般についての基礎的な知識の習得と本質的な理解を目標とする。自然科学の素養を深め初等理科教育のための資質向上を図る。自然の事物・現象に関わり、その質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などを科学的な視点で捉え、比較したり関係づけたりして科学的に探究する方法・考える態度を修得することを目的とする。 学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 【知識・技能】身近な動植物および教材を活用して子どもの生命や自然に対する感受性を育み、学習によって子どもの好奇心、創造力、生きる力を育むための学術的知識と実践的な活動能力を身に付ける。 【汎用的技能】児童期の子どもを対象として、命の温もり、自然の美しさ、不思議などを伝え、豊かな子ども文化の創造と能動的な学習および生きる力の育成に貢献するための高度な専門的知識と実践的スキルを身に付ける。 【態度・志向性】知・情・意の均整のとれた健全な人格を備え、「身近な動植物および科学技術」を豊かな子ども文化の創造と能動的な学習および生きる力の育成のために教育活用するのみならず、そのための効果的教育手法の開発を志向し実践する態度を備える。 【総合的な学習経験と創造的な思考力】未来を担う子どもたちの健全な生きる力と感受性を育み、豊かな子ども文化の創造と能動的な学習に寄与する教育的指導者をめざす。
計画・内容	第1回～7回：実験（基礎科学実験室で開講する） 第1回：全体説明・力学実験1：振り子 （担当教員：木村龍平） 第2回：力学実験2：てこのしくみ （担当教員：木村龍平） 第3回：電気実験1：導体と絶縁体、電流について

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	(担当教員：木村龍平) 第4回：電気実験2：電磁石 (担当教員：木村龍平) 第5回：化学実験1～燃焼と化学反応 (担当教員：木村龍平) 第6回：化学実験2：物の溶け方と水溶液 (担当教員：木村龍平) 第7回：化学実験3：水溶液の性質 (担当教員：木村龍平) 第8回から15回：講義及び実験（基礎科学実験室） 第8回：生命1～身近な動植物とその生殖 (担当教員：園山博) 第9回：生命2～動植物の中の「はたらき・もの・かたち」 (担当教員：園山博) 第10回：生命分野に関する実験1（光合成に関すること） (担当教員：園山博) 第11回：生命分野に関する実験2（呼吸に関すること） (担当教員：園山博) 第12回：地球1～太陽と地面の様子、天候の変化 (担当教員：園山博) 第13回：地球2～太陽と天体の動き (担当教員：園山博) 第14回：地球分野に関する実験・観察（太陽の動き、空気中の水蒸気量） (担当教員：園山博) 第15回：地球3～流水の働きと土地のつくり・まとめ (担当教員：園山博)
授業の進め方	実験は基礎科学実験室（本館2F）で行う。 前半の実験1～7は実験テキストを配布する。これに従って実験を各自で行い、結果をテキストの所定欄に記録する。翌週次回までに課題（考察）を行って結果をまとめ、実験レポートを提出する。 8回以降の授業は、授業テーマに即した実験や実践課題を提示する。 講義においては、演習等を行うので、積極的に参加すること。また、事前に関連分野について調べておくこと。
能動的な学びの実施	授業テーマに即した実践課題を提示する。そして、自発的に試行錯誤を重ね、課題解決に取り組む。
授業時間外の学修	予習:授業毎ごとに概ね2時間(合計30時間)。 復習:授業毎ごとに概ね2時間(合計30時間)。
教科書・参考書	参考書：「小学校学習指導要領解説 理科編」、日本文教出版
成績評価方法と基準	木村担当回（実験）は実験の取り組み状況50%と実験レポート50%で評価する。 園山担当回は、授業中に提示する課題30%、実験レポート30%、課題レポート40%を統合して評価する。 単位認定には前半の実験全出席、実験レポートの全提出が必要。
課題等に対するフィードバック	レポート課題に関しては、適宜要点を解説する。
オフィスアワー	木村：火曜日昼休み (科目全体に関する問い合わせは木村まで)
留意事項	生活科は関連科目なので必ず受講すること。 木村担当回（実験）は、初等教科教育法(理科)の木村担当回と密接に関連しているので同時履修のこと。ま

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	た木村担当回（実験）は遅刻は認めない（入室不可）。欠席した実験日は別に補講実験を指定日に行う。全実験実施と実験レポート全提出が当科目の単位認定には必要である。4回以上欠席すると自動的に不合格となる（補講実験の対象にしない）。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・授業内容に応じてZoomによるリアルタイムオンライン授業、オンデマンド動画配信、課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・授業中に提示する小レポート50%と期末レポート50%を統合して評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
授業コード	AI359
英語名称	Methodology for Special Activities and the Period for Integrated Studies
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○特別活動は、他者との協働や集団活動を通して自己を理解し、人間関係を形成する等、社会的な学びを担う教育指導内容を持つ。「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」のそれぞれの意義や役割を理解し、特別活動に関する指導の組み立て、学級活動の指導案づくりについて学ぶ。 ○総合的な学習の時間では、探求的な学びと横断的・総合的な学習が求められている。また、主体的・協働的な学習に取り組み、積極的に社会に参画しようとする態度を養うことを目標にすることから、学習指導要領において、総則と特別活動に関連し合うため、該当する総則の内容についても触れる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校の校内研究において「かわり合い」「対話的な学び」「チーム学習」について年間指導講師として招かれている経験と、学級活動の指導案づくりや研究授業の講評講師をつとめている経験を生かし、特別活動や総合的な学習の時間の授業づくりだけではなく、学級経営や生徒指導及びキャリア教育についての理解も同時に深まるように、学級活動の指導案づくりを作成できることを目指した学びのポイントを提示していく。
到達目標	○教育活動における特別活動と総合的な学習の時間の意義と役割についての理解を深めることを目的として、学級活動の指導内容を理解し、指導案の作成ができること、児童会活動・クラブ活動・学校行事を集団やかわりの学びとして教育活動に位置づけ、活用すること、総合的な学習の時間の具体的な指導内容をイメージできるようになることを目標とする。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 特別活動・総合的な学習の時間とは？ 第2回 特別活動の目標 人間関係形成/社会参画/自己実現 第3回 特別活動：学級活動 実践・体験から学ぶ 第4回 特別活動：学級活動 学級づくりとキャリア形成 第5回 特別活動と総則との関連 学級経営 第6回 特別活動と総則との関連 主体的・対話的で深い学び 第7回 課題実践1：学級活動の指導案づくり 学級活動の教材研究 第8回 課題実践2：学級活動の指導案づくり 発達段階を意識した指導内容 第9回 課題発表1 低学年の模擬授業 第10回 課題発表2

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	中学年の模擬授業 第11回 課題発表 3 高学年の模擬授業 第12回 総合的な学習の時間 改訂ポイントと目標 第13回 総合的な学習の時間 内容の取扱いと指導の考え方 第14回 総合的な学習の時間 体験的な学び/思考ツール/環境整備と評価 第15回 まとめ 理解度の確認：まとめ思考テスト（記述形式）
授業の進め方	○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておく。 ○教科書である「小学校学習指導要領解説（特別活動編）」「小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）」及び参考書「小学校学習指導要領解説（総則編）」を何度も読み、記述内容の把握と理解をしておく。 15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	○教科書：小学校学習指導要領解説（特別活動編） 小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編） （文部科学省HPからダウンロード可） ○参考書：中村豊・原清治編『新しい教職教育講座 教職教育編 特別活動』 ミネルヴァ書房（2018年） 林尚示『特別活動 改訂版—総合的な学習（探求）の時間とともに—』 学文社（2019年） 小学校学習指導要領解説（総則編）（文部科学省HPからダウンロード可）
成績評価方法と基準	○授業内のチームでの話し合いへの参加とコメントシート30%、チーム課題35%、まとめ思考テスト（理解度の確認：記述形式）35%により総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題提出35%、まとめ思考テスト（理解度の確認：記述形式）30%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育の指導法（言葉）
授業コード	AI332
英語名称	Teaching Methods for Child Care and Education (Language)
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○幼稚園・保育所・子ども園での指導やねらいの領域の一つに「言葉の獲得に関する領域」としての「言葉」がある。保育者・教育者として、子どもの言語獲得の理解と知識を深め、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」を解釈し、理解した上で、指導計画を作成するための知識を得る内容を持つ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・中学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。
到達目標	○子どもの言語能力をささえる保育・教育者に必要な知識として「日本語」及び「言語獲得」に関する知識を深めること、子どもの言語の獲得のプロセスについて理解すること、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」の解釈及び理解をすること、保育・教育の場での指導計画を作成するための知識を得ることを授業の目標とする。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 環境と言葉の相関 第2回 音声言語の獲得 言語音の聞き分けと理解 第3回 指導案づくり 環境と音声言語獲得の視点を踏まえた指導案 第4回 日本語の文字への興味 書記言語を獲得することの意義 第5回 指導案づくり 文字への興味の視点を踏まえた指導案 第6回 言葉と気持ちの相関 語彙の獲得とプロセス 第7回 指導案づくり 語彙獲得の視点を踏まえた指導案 第8回 ことばの発達 育児放棄事例と言語の獲得 第9回 実践課題 児童文化財・教材研究 第10回 実践課題 教材作成・課題まとめ

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第11回 実践課題 教材活用練習 第12回 課題発表 教材研究の発表 第13回 課題実践 模擬実習（部分実習） 第14回 課題実践 教材発表（自己紹介教材） 第15回 まとめ 理解度の確認：まとめ思考テスト（記述形式）
授業の進め方	○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互に考えを交流し合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと ○教科書である「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」を読み、記述内容の把握と理解をしておくこと ○課題作成の際にはメモなどを残し、きちんとポートフォリオとしてまとめ、後から振り返りができるようにしておくこと 合計15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	教科書：齋藤政子（編）『保育内容「言葉」と指導法 理解する・考える・実践する』中央法規出版(2023) 参考書：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート課題提出30%、課題実践及び発表35%、まとめ思考テスト35%により、総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題実践と発表35%、まとめ思考テスト35%で総合的に評価する

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	初等教育実習
授業コード	AI360
英語名称	Practice Teaching for Elementary Education
学期	2025年度後期
単位	4.0
担当教員	前嶋 深雪, 三宅 美千代, 原 純子, 園山 博, 望月 崇博, 木村 龍平, 稲垣 馨, 藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この科目では、20日間の小学校教育実習を行う。大学で学修した教科・教職に関する理論や知識・技能と、実習校での教育活動（教育実践）とを相互に関係させて、教育の現場で学ぶことを目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育現場での経験を持つ者が中心となって、こども学科の教員全員で初等教育実習の指導に取り組んでいる。教育実習での巡回における学生への個別指導には、各教員の現場経験を生かし、学びのポイントを示しながら指導する。
到達目標	児童観察を踏まえた児童理解のもとで、学級経営、生徒指導にあたり、自分の指導観を深めていくことができる。 学習指導要領に基づき、教科の単元に即した教材研究ができる。 適切な指導観を反映した学習指導案を作成し、授業実践ができる。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	小学校において、20日間の教育実習を行う。教育実習の内容は以下の通りである。 観察実習:児童の活動や実態、教諭の活動や指導の実態、評価・学級経営の方法、学級の実態、学校環境等を観察することにより、小学校教育への理解を深め、教育実践の参考とする。 参加実習:教諭の行う様々な教育活動に参加し、教諭としての役割を果たすために必要な態度・技能等を修得する。 授業研究と研究授業:授業観察を通じて、児童の実態の把握、教材研究の方法、指導案の作成の仕方、学習指導の形態など、授業研究に関する基本的なあり方について学び、その成果を研究授業へとつなぐことによって、実践力を高める。
授業の進め方	・実習校において、観察、授業実践、研究授業、その他の教育実践を行う。 ・大学の担当教員全員による巡回指導を行う。
能動的な学びの実施	実習校において、観察、授業実践、研究授業、その他の教育実践を行う。
授業時間外の学修	時間外の学習として、授業実習の準備、教育実習日誌への記録などを行う。
教科書・参考書	特になし。
成績評価方法と基準	実習への取り組みについての評価（20％）、実習校からの評価(80%)を基に、総合的に成績評価を行う。

2025年度 東京西学部時間割

課題等に対するフィードバック	教育実習における実習校からの評価について、フィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	・ 小学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。 ・ 1年次より提示している「初等教育実習の履修条件」を満たした学生のみが、本科目を履修することができる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 文部科学省より示される内容に依拠して判断する。 成績評価方法と基準 実習への取り組みについて、総合的に成績評価を行う。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	児童文学
授業コード	AI103
英語名称	Literature for Children
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○児童文学はそのジャンルに絵本を含み、子どもの言語の発達に絵本の読み聞かせは欠かせないツールとなっている。絵本は音声言語を中心に子どもに言葉を届ける言語形式であり、学齢以前から学齢期にかけて、絵本及び児童文学書に触れ合うことで子どもの読む力が育まれると同時に、書記言語を含めた言語能力が獲得されていく。保育・教育者として、子どもの発達段階に応じた児童文学作品を選ぶ視点や子どもに児童文学作品に興味を持たせる作品紹介ができる表現の力を獲得することは必要であり、これらの学びを中心に展開する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での校内研究の講師・学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識及び言語運用の観点から、絵本をはじめとする児童文学作品について、言語分析やテキスト分析を通して、読み聞かせなどの表現も含めた学びのポイントを提示していく。
到達目標	○保育・教育者として、子どもが触れる児童文学作品について理解し、子どもの発達段階に応じた作品を選ぶ力を得ることを目的として、物語の構造分析の視点を得ること、子どもが興味を持つポイント及び子どもにとっての言語の学びとなるポイントを見つける視点を持つこと、読み聞かせや文学作品の紹介の仕方などの表現力を高めることを目標とする。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 児童文学とは？ 第2回 絵本の構造分析 言語的な視点（言葉の特徴） 第3回 絵本の構造分析 ストーリー分析（子どもと大人の視点の違い） 第4回 絵本の構造分析 音声言語としての絵本（読み聞かせのために）/発達段階に応じた絵本を選ぶ 第5回 課題実践 絵本の構造分析 第6回 課題実践 絵本の価値と紹介文 第7回 課題発表 絵本について相互に学び合う 第8回 子どもの本の歴史 世界の児童文学の歴史と作品 第9回 子どもの本の歴史 日本の児童文学の歴史と作品 第10回 児童文学作品テキスト分析

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	作品の構造分析 第11回 児童文学作品テキスト分析 作者と時代 第12回 児童文学作品テキスト分析 作品のテーマと価値 第13回 チーム課題実践 作品の解釈と表現の考察 第14回 チーム課題実践 時代性と価値の考察 第15回 課題発表（チーム） 児童文学作品について相互に学び合う/最終レポート課題（記述）の確認
授業の進め方	○チームごとに、各時間のテーマに沿った児童文学に関する課題を考えて仕上げ、発表し合う時間を多く持つ。いろいろな意見や解釈を伝え合いながら、共有する機会を設け、協働の体験と発表の体験を重ねながら、児童文学についての学びを深める授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、第15回授業時にポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○授業内では文学作品や資料を読みこなす時間が不足するため、授業で扱った作品や資料については、授業終了後に何度も読み、理解しておくこと（各回約2時間相当）。 ○絵本や児童文学作品を図書館で借りたり、購入したりなどして、授業を開講する春学期中に10冊以上は読むこと（各回2時間相当）。 15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	○教科書：特になし（授業時に資料を配付する） ○参考書：川端有子『児童文学の教科書』玉川大学出版部（2013年） ひこ田中『大人のための児童文学講座』徳間書店（2005年） リリアン・H・スミス（石井桃子ほか訳）『児童文学論』岩波書店（2015年）
成績評価方法と基準	○授業内のチームでの話し合いへの参加とコメントシート30%、課題発表40%、最終レポート30%により総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題提出40%、最終レポート（記述）30%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	初等教育実習事前事後指導
授業コード	AI329
英語名称	A Guidance of Practice Teaching for Elementary Education
学期	2025年度通年（前・後）
単位	1.0
担当教員	前嶋 深雪, 園山 博, 大西 圭介
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○初等教育実習は、大学でこれまでに学んできたことを教育現場で経験し、教師として必要な知識・技術・態度をより深く習得し、教育に関する理解を深め、教師として活躍できる素地をつくる場である。本授業では、実習前の準備と実習後のまとめをすることで、小学校教員としての資質・能力を高め、指導方法や児童への対応仕方の具体的な学びを行うことを目的とする。また、教育実習生としての責任（児童に対する責任、実習校への責任、教員としての責任）についての自覚を高めていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○教育現場での経験を持つ者が初等教育実習事前事後指導にたずさわることで、学生には来たるべき教育実習をイメージすることができ、さまざまな刺激を受ける機会となっている。模擬授業を中心とした事前指導の中で語られる内容は学生に教育実習への期待を抱かせることにつながっている。また、教育実習後の事後指導においては、学生が教育実習の成果と課題をポイントをおさえてまとめることができるよう、教育現場での経験のある教員が中心となって指導する。
到達目標	○児童の前に立つための、言葉遣い、文字の書き方、指導方法の基礎を学び、実習意欲、実習態度を確立することができる。 ○教師の役割と責任の重さを自覚し、教育実習に臨む覚悟と知識・技術・態度を身に付けることができる。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	【事前指導】前期 第1回 イントロダクション（授業スケジュールと教育実習の目的・服务等）（前嶋・園山・大西） 第2回 授業づくりと教材・ツールの活用について（前嶋・園山・大西） 第3回 指導案作成（前嶋・園山・大西） 第4回 模擬授業の実施と授業研究 算数授業1：数と計算（前嶋・園山・大西） 第5回 模擬授業の実施と授業研究 算数授業2：図形（前嶋・園山・大西） 第6回 模擬授業の実施と授業研究 算数授業3：測定（前嶋・園山・大西） 第7回 模擬授業の実施と授業研究 算数授業4：データの活用（前嶋・園山・大西） 第8回 模擬授業の実施と授業研究 国語授業1：知識及び技能（前嶋・園山・大西） 第9回 模擬授業の実施と授業研究 国語授業2：話すこと・聞くこと（前嶋・園山・大西） 第10回 模擬授業の実施と授業研究 国語授業3：書くこと（前嶋・園山・大西） 第11回 模擬授業の実施と授業研究 国語授業4：読むこと（前嶋・園山・大西） 第12回 模擬授業ふりかえりと教育実習目標の設定（前嶋・園山・大西） 【事後指導】年後期（初等教育実習終了後） 第13回 教育実習ふりかえり（前嶋・園山・大西） 第14回 教育実習ふりかえり課題まとめ（前嶋・園山・大西） 第15回 教育実習報告発表（前嶋・園山・大西）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	
授業の進め方	・教育実習に参加するために必要な書類等の作成 ・教育実習に参加するための心構えの醸成 ・教育実習に必要とされる専門性、実践的指導力の修得 以上のことを踏まえて、全体指導やグループ指導、個別指導を組み合わせる授業を進める。
能動的な学びの実施	本授業では模擬授業を実施するほか、多くのグループワークが含まれ、グループを中心にディスカッション及びプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学修	予習：指導案作成、模擬授業準備 復習：模擬授業の振り返り、日報の作成 以上のような内容で合計15時間程度の予習復習時間を確保すること。
教科書・参考書	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』 このほか、授業内で適宜紹介する。
成績評価方法と基準	【事前指導】 指導案作成と模擬授業（35％）、日誌（20％）、模擬授業の成果と課題のまとめ（15％） 【事後指導】 教育実習報告会への取り組み（20％）、最終まとめ（10％）
課題等に対するフィードバック	【事前指導】 ・模擬授業に向けて、国語および算数の指導案については、教員が添削を行い返却する。 ・模擬授業や学生のまとめや振り返りに対し、授業内でフィードバック、コメントを行う。 【事後指導】 ・学生が行う教育実習の振り返りや、プレゼンテーションに対し、授業内でフィードバック、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	【事前指導に関する留意点】 1）無断欠席は原則1回で実習中止となる。 2）病気による欠席の場合は後日に医療機関の診断書等の提出が必要となる。 3）連絡あった上での欠席は3回までが許容回数ですが、状況により実習中止となることがある。 【その他】 ・小学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。 ・1年次より提示している「初等教育実習事前指導の履修条件」を満たした学生のみが、本科目を履修することができる。 ・全15回の授業への積極的な参加を要する。無断欠席・無断遅刻をした場合や、課題や書類の未提出・提出遅れ、受講態度が不適切であった場合は、初等教育実習への参加資格を失うことがあるので留意する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomによるオンライン授業を実施する。 成績評価方法と基準 【事前指導】 模擬授業（35％）、日報（20％）、模擬授業の成果と課題のまとめ（15％） 【事後指導】 教育実習報告会への取り組み（20％）、最終まとめレポート（10％）

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育・教職実践演習（幼・小）
授業コード	AI456
英語名称	Childcare/Teaching practical seminar(kindergarten / primary school)
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	藤井 志帆, 前嶋 深雪, 園山 博
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、大学における保育教職課程の授業科目履修及び教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた事項について、保育・教職に関わる人材としての重要な資質能力となるように、有機的に統合され、形成されることを目的に、保育・教職に必要な知識・技術・態度をより深く習得し、理解を深め、現場において能力を発揮するための内容を持つ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	幼児教育、初等教育経験のある教員を中心に、実践の中から見出される問題に対して指導方法を学べるように、学びのポイントを提示していく。
到達目標	次の4つの事項について、保育・教育に携わる自覚と学修を深めていくことを目標とする。 1．使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 2．社会性や対人関係能力に関する事項 3．幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 4．教科・保育内容等の指導力に関する事項 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身に付けること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション（藤井・園山・前嶋） 第2回 法律と教育：子どもの権利条約と障害者権利条約（藤井・園山・前嶋） 第3回 法律と教育：インクルーシブ教育とインクルーシブ保育（藤井・園山・前嶋） 第4回 プロジェクト保育：理論の理解（藤井・園山・前嶋） 第5回 プロジェクト保育：構築のための考え方（藤井・園山・前嶋） 第6回 通知表等の評価の言葉（藤井・園山・前嶋） 第7回 おたよりの作成（藤井・園山・前嶋） 第8回 小学校模擬授業（藤井・園山・前嶋） 第9回 幼稚園模擬保育（藤井・園山・前嶋） 第10回 こども園（幼児期の保育と教育）に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第11回 療育と福祉（放デイ等）に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第12回 教育相談（不登校相談等）に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第13回 幼稚園の教育に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第14回 小学校の教育に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第15回 まとめ：履修カルテのふりかえり（藤井・園山・前嶋）
授業の進め方	全体指導やグループ指導、模擬授業、ゲストスピーカー講話を組み合わせる授業を進める。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	本授業では、課題に対してチームにより話し合いや発表があり、チーム活動を中心としたディスカッション及びプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学修	○授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと。 ○体験と知識を関連づけたり、記録としてつけたりするなど、学修ノートを作成すること。 (合計60時間程度)
教科書・参考書	特になし。必要な資料は授業時に配布する。
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート提出25%、課題発表50%、履修カルテ25%で総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	課題については、その都度にコメントフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomを活用したリアルタイムオンライン授業とオンデマンド授業を併用して行う。 授業への参加、発言(25%)、提出物・レポート(50%)、履修カルテ(25%)に基づき、総合的に評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	体育
授業コード	AI166
英語名称	Physical Education 1
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	望月 崇博
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	本講義では、身体を動かすだけではなく、「遊び」というキーワードのもとに実際の授業実践方法、留意点等を踏まえ、実践と理論を行うものとする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小学校体育科における運動実践において、指導経験のある教員が理論と実践を結びつけるような授業実践を行う。
到達目標	児童期の子どもの対象として、豊かな子ども文化の創造に貢献するための高度な専門的知識と実践的技能を身につける 学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 【知識・技能】 遊びによって児童の好奇心と創造力を育むための学術的知識と実践的な活動能力を身につける。 運動遊びというキーワードのもと基礎的な身体の動かし方、捉え方、遊び方を習得できるようにする。 【人間力・指導力】 児童の運動発達を理解する。 【使命感・思考力】 小学校体育を担当する責任感を身につけさせる。
計画・内容	第1回：オリエンテーション（授業の進め方、成績、出欠、ノートの記述方法について） 第2回：体育についての歴史的背景（日本における体育の成り立ち） 第3回：幼児期における身体（発達段階における身体と身体の成長） 第4回：少年期における身体（身体の変容） 第5回：運動遊びの概念（遊びの概念） 第6回：幼少の運動遊びの関連性（発達段階から捉える運動遊び） 第7回：運動遊び（体を移動する運動遊び） 第8回：運動遊び（バランスをとる運動遊び） 第9回：運動遊び（用具を操作する運動遊び） 第10回：表現(1)（遊びから始まる身体表現） 第11回：表現(2)（ダンス創作） 第12回：遊びを生かした授業づくり（授業づくりの基礎） 第13回：遊びを生かした授業づくり（授業をデザインする） 第14回：運動遊びの開発（各グループで遊びの開発） 第15回：運動遊びの開発と発表（各グループの遊びの発表）
授業の進め方	座学と実技を流動的に行いながら、最終的にはダンスの作品を創作したり、遊びのプログラムを開発し、実践として生かせる授業構成にする。
能動的な学びの実施	・自ら身体を動かす楽しさを理解し実践できるようにする。 ・遊びのプログラム、ダンス創作を通して能動的に授業参加できるようにする。

2025年度 東京西学部時間割

授業時間外の学修	各回授業の振り返りをノートにまとめる。(毎回45分) 次回授業に関連する運動遊びを調べてくる。(毎回45分)
教科書・参考書	使用する教材は、教員が用意する。筆記用具、ノートは各自準備すること。
成績評価方法と基準	授業への関心・授業態度5%、授業ノート50%、遊び開発の評価25%、思考点20点
課題等に対するフィードバック	毎回の授業で出された課題は次の回までにノート・プリントにまとめ、次回の授業開始時に意見や質問の時間を設け全体にフィードバックする。
オフィスアワー	専任教員はCampusSquareを参照
留意事項	運動のできる動きやすい格好で受講すること。 ピアス等の装飾品は全てはずすこと。 小学校教諭資格取得必須科目
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoom形式および課題提出形式 授業への関心・授業態度5%、授業ノート50%、遊び開発の評価25%、思考点20点

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	体育
授業コード	AI319
英語名称	Physical Education 2
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	望月 崇博
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	小学校体育科における各領域の運動実践を行い様々な領域に触れることで、基礎的な運動理論を学べるようにする。また、領域に固執するのではなく広く運動と身体を理解できるようにする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小学校体育科における各領域の運動について、指導経験のある教員が理論と実践を結びつけるような授業実践を行う。
到達目標	学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 【知識・技能】 児童の運動発達を理解する。 【使命感・思考力】 小学校体育を担当する責任感を身につけさせる。
計画・内容	第1回：オリエンテーション（授業の進め方、成績、出欠、ノートの記述方法について） 予習：小学校体育科学習指導要領の各領域内容を調べる。 復習：小学校体育科学習指導要領の各領域の目標を調べる。 第2回：体づくり運動(1)（体ほぐし運動の意義） 予習：体づくり運動領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成（体づくり運動） 第3回：体づくり運動(2)（体ほぐし運動の実践） 予習：体づくり運動領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成（体づくり運動） 第4回：体づくり運動(3)（多様な動きをつくる運動） 予習：体づくり運動領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成（体づくり運動） 第5回：走・跳・投の運動(1)（理論） 予習：走・跳・投の運動領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成（走・跳・投の運動） 第6回：走・跳・投の運動(2)（実践） 予習：走・跳・投の運動領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成（走・跳・投の運動） 第7回：球技(1)（屋外球技の実践と理論） 予習：球技領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成(屋外球技) 第8回：球技(2)（室内球技の実践と理論） 予習：球技領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成(室内球技) 第9回：球技(3)（球技の本質の捉え方） 予習：球技領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成(球技)

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第10回：水泳(1)（実践） 第11回：水泳(2)（実践） 第10,11回は2コマ続き 予習：水泳領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成(水泳) 第12回：表現運動(1)（創作ダンス） 予習：表現領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成(表現) 第13回：表現運動(2)（現代的なリズムのダンス） 予習：表現領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成(表現) 第14回：表現運動(3)（フォークダンス） 予習：表現領域の内容を調べる。 復習：授業実践の振り返りノート作成(表現) 第15回：これからの小学校体育に向けて（座学による体育の可能性）
授業の進め方	座学と実技を流動的に行いながら実践として生かせる授業構成にする。
能動的な学びの実施	・グループで各競技、種目についての技能向上のための方法を話し合い実践する。
授業時間外の学修	各回授業の振り返りをノートにまとめる。（毎回45分） 毎時間の課題を次の回までにプリントにまとめてくる。（毎回45分）
教科書・参考書	小学校体育科学学習指導要領
成績評価方法と基準	授業への関心・授業態度20%、授業ノート20%、実技点60%
課題等に対するフィードバック	各回授業の課題を次の回までにノートやプリントにまとめ、そこでの質問や意見を次回授業時に共有し、全体にフィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoom型授業および課題学習型授業 成績評価方法と基準 授業への関心・授業参加40% 振り返りノート60%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	初等教科教育法（体育）
授業コード	AI268
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (Physical Education)
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	望月 崇博
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	小学校学習指導要領に示された体育の目標と内容を踏まえ、すべての児童が運動の楽しさや喜びを味わうための授業づくりの理論と指導方法について学ぶ。授業は講義と実技の併用で進め、実践力を養うため指導案作成及び模擬授業を実施する。特に、良い授業の作り方については、自身が現場経験で培った「教材づくり」、「良い授業の基礎的・内容的条件」を生かした講義を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小学校体育科における各領域について、指導経験のある教員が理論と実践を結びつけるような授業実践を行う。
到達目標	児童を対象として、豊かな子ども文化の創造に貢献するための高度な専門的知識と実践的スキルを身につけるために、小学校体育科の目標、内容、指導・評価方法について理解する。 学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 【知識・技能】 児童の運動発達を理解する。運動遊びというキーワードのもと基礎的な身体の動かし方、捉え方、遊び方を習得できるようにする。 【人間力・指導力】 各運動領域の特性・内容を踏まえた指導計画および学習指導案が作成できる。 【創造的な保育や教育】 模擬授業、授業分析を通して、子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ現場で生かせる実践力を身につける。
計画・内容	授業計画 第1回 オリエンテーション(体育科教育とは何か、教科体育はなぜ必要か) 予習 小学校時受けた体育の授業で印象に残っているものを書く。 復習 教科体育の必要性について確認する。 第2回 現学習指導要領における小学校体育科の内容(各学年の目標、領域構成、技能・態度、思考・判断) 予習 学習指導要領小学校体育の目標について予習してくる。 復習 小学校体育の目標と内容について復習する。 第3回 事例調査 予習 自分の担当領域の事例を調べてくる。 復習 事例をまとめてくる。 第4回 学習計画、学習指導案の作成の仕方 予習 学習指導案とは何か、調べてくる。 復習 体育の学習指導案作成の方法について復習する。 第5回 事例紹介 (体づくり運動領域) 予習 自分の領域について調べてくる。 復習 選んだ領域の授業構想を整理する。

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	予習 自分の領域について調べてくる。 復習 選んだ領域の授業構想を整理する。 第7回 事例紹介 (ボール運動領域) 予習 自分の領域について調べてくる。 復習 選んだ領域の授業構想を整理する。 第8回 事例紹介 (ボール運動領域) 予習 自分の領域について調べてくる。 復習 選んだ領域の授業構想を整理する。 第9回 事例紹介 (表現運動領域) 予習 自分の領域について調べてくる。 第10回 模擬授業 (体づくり運動) 予習 模擬授業の行い方について確認してくる。 復習 模擬授業を振り返り、次回の課題を整理する。 第11回 模擬授業 (陸上運動の模擬授業) 予習 模擬授業の行い方について確認してくる。 復習 模擬授業を振り返り、次回の課題を整理する。 第12回 模擬授業 (ボール運動の模擬授業) 予習 模擬授業の行い方について確認してくる。 復習 模擬授業を振り返り、次回の課題を整理する。 第13回 模擬授業 (ボール運動の模擬授業) 予習 模擬授業の行い方について確認してくる。 復習 模擬授業を振り返り、次回の課題を整理する。 第14回 模擬授業 (表現運動の模擬授業) 予習 模擬授業の行い方について確認してくる。
授業の進め方	授業は講義及び演習形態で進める。授業時間外では、体育・スポーツに関するボランティア活動に積極的に参加し、子どもたちに関わり、児童に運動指導を行う経験をしておくことが望ましい。
能動的な学びの実施	・指導案を作成し、積極的に模擬授業に参加する。 ・児童期の子どもの発達を調べ理解し、指導案が書けるようにする。
授業時間外の学修	授業内容について、教科書を読み理解する。また授業後、学習した事柄について復習し、ノートにまとめる。模擬授業の指導案作成(合計60時間)
教科書・参考書	・テキスト 「小学校学習指導要領 体育編」(文部科学省)、授業用配布プリントあり ・参考書・参考資料等
成績評価方法と基準	○到達目標：学習指導要領の目標と内容を理解し、各領域の具体的な指導計画が立案できる。また、指導計画に基づく模擬授業を行うことができる。 【評価の方法】 平常評価
課題等に対するフィードバック	授業で作成したレポート・指導案については、その都度フィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・模擬授業は運動着、運動シューズで参加すること。 ・講義中の私語は厳禁。

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	こども学科小幼コース卒業要件科目、小学校教諭資格取得必須科目
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoom形式およびオンデマンド 模擬指導:40%、指導案:30%、授業への取り組み態度:30%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	教育心理学
授業コード	AI164
英語名称	Educational Psychology
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	学校教育における教育心理学の周辺領域を含め総合的に学ぶ。教育現場で生じる問題に対して教育心理学的視点から対応できるよう、子どもの心身の発達、学習や発達障害に関わる心理的なメカニズムについて学んでいく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育相談員、スクールカウンセラーとして学校現場に関わった経験を有している。実践に向けて、チーム学校における協働的な支援のありかた、必要な知識とアプローチ方法について、事例を取り上げて解説する。
到達目標	教育心理学の基礎的な知識を習得し、教育現場で生じる問題と背景について説明できる。また教育現場で生じる問題解決にむけて、児童生徒の発達促進的支援に必要な方法を現場で実践できるよう学んでいく。 学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。 教育・保育の現場で求められる教育心理学に関する専門知識と技能を体系的に理解するとともに、教育心理学に関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】 子どもと関わる際に、周囲の方々と協働しながら、様々な課題や問題を見出し、教育心理学を活かした視点で支援・解決に取り組むことができる【使命感・思考力】 生命への思いやりをもって子どもと接し、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に教育心理学の知識を活用した指導計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】 本科目による学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】
計画・内容	第 1回 イントロダクション 教育心理学の目的と対象 第 2回 子どもの発達と教育 第 3回 身体・運動機能の発達 第 4回 認知の発達 第 5回 パーソナリティの発達 第 6回 人間関係の発達 第 7回 学習理論 第 8回 動機づけ 第 9回 不適応を示す子どもへの理解と対応 不登校 第10回 不適応を示す子どものへの理解と対応 いじめ、非行 第11回 特別支援教育と発達障害 第12回 学級集団の機能と発達 第13回 主体的学習の指導 第14回 教育評価 第15回 授業総括
授業の進め方	アクティブラーニングも取り入れた講義形式であり、パワーポイントや映像資料など適宜活用する。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	グループディスカッション，グループワーク，理解を深め実践に役立つロールプレイングなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め教科書の該当箇所を読み，不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し，自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	古屋喜美代他編（2023）. 児童生徒理解のための教育心理学. ナカニシヤ出版
成績評価方法と基準	定期試験（80％）+レポート・提出物（20％）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度，コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	こども学科卒業要件科目，小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得必須科目
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 授業中課題50％と期末レポート50％で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	発達心理学
授業コード	AI351
英語名称	Developmental Psychology
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、保育者として必要な発達を捉える視点について学ぶ。保育者が発達の事象を理解するためには、発達段階論の観点のみならず、発達過程論の視点や生涯発達論的な視点などが必要となるため、それらについて概観する。また、個性的な発達様相を示す幼児・児童の発達について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育・教育・医療の現場で、心理士として子どもから成人に関わった経験から、人間の生涯発達について臨床心理学的な視点による話題を提供する。とりわけ発達障害を抱える場合、発達の連続上にどのような困難が生じるのか等、事例を交えて解説する。
到達目標	保育者に求められる発達心理学に関する主要な理論、知識、考え方、キーワードを十分に習得し、実習等に生かすことができる。さらに自らの発達と重ねて発達過程の具体的なイメージをつかみ、人間の生涯発達について理解する。 学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。 教育・保育現場で求められる発達心理学に関する専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもの発達に関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】 子どもに関わる際に、周囲の方々と協働しながら、様々な子どもの発達に関する課題や問題を見出し、その支援・解決に取り組むことができる【使命感・思考力】 生命への思いやりをもって子どもと接し、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】 本科目の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】
計画・内容	第 1回 発達の捉え方と生涯発達心理学の理論的枠組み 第 2回 発達における遺伝と環境 発達における遺伝と環境の関係 第 3回 発達における遺伝と環境 双子の事例から考える 第 4回 発達初期の能力 胎児期・周産期の発達 第 5回 発達初期の能力 感覚と運動の発達 第 6回 自己と感情の発達 第 7回 他者との関係の発達 愛着とは 第 8回 愛着の発達 第 9回 ピアジェ理論を含む認知の発達 第10回 社会性・道徳性の発達 第11回 言語の発達 第12回 遊びと仲間関係の発達 第13回 学童期以降の発達 第14回 発達障害について 第15回 授業総括
授業の進め方	アクティブラーニングも取り入れた講義形式であり、パワーポイントや映像資料など適宜活用する。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	グループディスカッション，グループワークなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め教科書の該当箇所を読み，不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し，自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	林洋一（2022）.最新図解よくわかる発達心理学. ナツメ社
成績評価方法と基準	定期試験（60％）+レポート・提出物（40％）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度，コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 授業中課題50％と期末レポート50％で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育原理
授業コード	AI109
英語名称	Principle of Child Care and Education
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	原 純子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	そもそも「保育」とは何か？保育学の基本的理論を学ぶことで、保育を实践する場である「保育所」「幼稚園」について、実践者としての「保育士」「幼稚園教諭」について、またその専門性に基づく園内外の子どもと家族への役割について学ぶ。さらに、昨今の日本の保育現場における現状を明らかにし、課題について考察する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・ 国内外の幼稚園での幼児教育、保育所での乳幼児保育、子ども病院での医療保育、児童養護施設での養護、児童家庭支援センターでの里親家庭の措置児支援などの実務経験を活かし、多様な保育現場における様々な子どもへの保育と家族への支援の実際とそれを支える理論について講義する。
到達目標	1．保育の基本的理論と実践について理解する。 2．保育の場と保育者の専門性について理解し、子どもへの保育と家族への支援について考察する。 3．昨今の日本における保育の現状と課題を理解し、それに対する考察を述べる。 学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する本科目の位置付けは以下の通りである。 【教養と倫理観】 ・ 現代の子どもと家族を取り巻く社会環境と保育の社会的意義について知見を拡充する。 ・ 子どもと家族の生活やプライバシーに密接に関わる専門職としての倫理観について理解する。 【知識・技能】 ・ 保育・幼児教育に求められる基本的知識について理解する。 ・ 子どもの集団及び子ども一人ひとりとその家族の個性に対する理解を深め、それらに対応する技能の必要性について理解する。
計画・内容	第1回 保育とは 保育のイメージ・定義 第2回 保育とは 保育の理念と社会的意義 第3回 子どもとは 子どものイメージ・子ども観 第4回 子どもとは 子ども理解・子どもの遊び 第5回 保育の成り立ち 西欧の保育の思想と歴史 第6回 保育の成り立ち 日本の保育の思想と歴史 第7回 保育の場 保育所・幼稚園・認定こども園 第8回 保育の場 家庭・多様な保育の場

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第9回 保育の目標・内容・方法 第10回 保育者の専門性 第11回 保育所における子育て支援 第12回 保育をめぐる近年の状況と課題 第13回 【演習】 幼稚園・保育所の現状と課題を巡る事例研究（情報収集・グループ討議） 第14回 【演習】 幼稚園・保育所の現状と課題を巡る事例研究（資料作成） 第15回 【演習】 幼稚園・保育所の現状と課題を巡る事例研究（発表会）
授業の進め方	【教員】 ・ 本科目の理論について説明し、ポイントを提示する。 ・ 新聞記事や映像資料等を活用して関連事例を紹介し、それに対する解釈を述べる。 【学生】 ・ ワークシートに、授業内容のポイントをまとめる。 ・ 保育に関するテーマに応じた問いについて、グループで討議して発表する。 ・ 本講のまとめとして、幼稚園保育所の現状や課題に関する事例研究会を行う。
能動的な学びの実施	【グループ討議】 ・ 保育に関するテーマに応じた問いについて、グループで討議して発表する。 【事例研究会】 ・ 昨今の幼稚園、保育所保育の現状と課題を知るために、参考文献、新聞記事、映像資料から実際の事例について情報収集し、グループ討議を踏まえた資料作成を行い発表する。
授業時間外の学修	・ 講義内で説明する。
教科書・参考書	教科書：咲間まり子・監修『保育原理 [第2班] —はじめて保育の扉をひらくあなたへ—』，みらい その他、講義内で関連書籍を紹介する。
成績評価方法と基準	筆記試験（30％）＋課題レポート（30％）＋授業レスポンス（25％）＋出席（15％）
課題等に対するフィードバック	・ 受講生は、毎講終了後に、教員指定の「レス・フォーム（GoogleForms）」に対して、感想・考察、疑問・質問、意見・提案、自由記述の各項に分けて入力、送信する。 ・ 教員は、全受講生より収集されたレスを匿名化して作表し、受講生にメール添付にて送信することで、受講生は他者意見を知り、新たな知見や気づきを得る。 ・ レスに質問や誤った理解が記述されていれば、個人を特定しない形でメールあるいは次回講義で回答する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	【非対面授業になった場合】 授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。 成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。 筆記試験（30％）＋課題レポート（30％）＋授業レスポンス（25％）＋出席（15％）

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	幼稚園教育実習事前事後指導
授業コード	AI321
英語名称	Guidance for Teaching Practice (Kindergarden)
学期	2025年度通年（前・後）
単位	1.0
担当教員	藤井 志帆, 一本嶋 諭, 原 純子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	* 本科目は、既習の教科の内容を踏まえ、実際の幼稚園教育実習で幼稚園と子どもへの理解を深めるために、園の概要、園生活の流れ、人的・物的環境、幼稚園教諭の勤務形態や専門性など幼児教育現場の基本的事項および実際の事例を用いた講義、演習を行う。 * 実習の意義や目的、自己目的・目標の明確化、実習計画書や実習記録の作成、指導案の立案に関する指導を行う。 * 「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習」それぞれ終了した後に、まとめとしての「事後指導」を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	国内外の幼稚園におけるクラス担任教諭、障害児の加配職員としての実務経験を活かし、多様な子どもたちへの理解と対応、その成長発達への個別最適化された教育・支援について、実際の事例を用いて講義する。
到達目標	* 到達目標は次の2つとなる (1) 幼稚園実習と幼稚園実習に向け事前準備を整え、実習事後には反省と学習の定着をはかる (2) 幼稚園教諭としての力を身につける 尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。
計画・内容	■ 事前指導 3年前期 (担当：藤井・原) 1) オリエンテーション 教育実習の意義と目的、実習に関する重要事項の説明と確認 2) 幼稚園の一日の流れ 3) 実習日誌の書き方 4) 実習日誌の書き方 5) 誓約書、個人調書、実習計画書の作成（下書き） 6) 保育者・子どもの観察の視点：実習日誌（エピソード記録）の書き方 7) 保育者・子どもの観察の視点：実習日誌（エピソード記録）の書き方

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	8) 誓約書、個人調書、実習計画書の作成（清書） 9) 指導案の書き方：絵本選びと部分実習指導案 10) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 11) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 12) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 13) 実習ガイダンス：オリエンテーションの準備、注意事項 14) 実習ガイダンス：御礼状の書き方 実習心得、勤務態度等 15) 実習ガイダンス：実習巡回担当教員との面談・オリエンテーション報告と発表 ■ 事後指導 3年後期 (藤井・原 担当。実習巡回を担当した教員) 1) 実習終了の振り返りシート作成、巡回指導教員との事後面談依頼 2) 事後面談 3) 実習の総括と展望について発表 ■ 事前指導：3年後期 (担当：藤井・原・一本嶋) 1) 教育実習の意義と目的、教育実習での学び・疑問の再認識、教育実習に向けての課題 2) 実習日誌から：保育者の支援方法や配慮について 3) 実習日誌から：子どもを見る観点について 4) 誓約書、個人調書、実習計画書の作成（下書き） 5) 指導案の書き方（グループA）/ ピアノ指導（グループB） 6) 指導案の書き方（グループB）/ ピアノ指導（グループA） 7) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 8) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 9) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 10) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 11) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 12) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省 13) 実習ガイダンス（グループA）/ ピアノテスト（グループB） 14) 実習ガイダンス（グループB）/ ピアノテスト（グループA）
-------	---

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	15) 実習ガイダンス : 実習巡回担当教員との面談・オリエンテーション報告と発表 ■ 事後指導: 4年前期(2026年度) (藤井・原 担当。実習巡回を担当した教員) 1) 実習終了の振り返りシート作成、巡回指導教員との事後面談依頼 2) 事後面談 3) 実習の総括と展望について発表
授業の進め方	* 代表教員が講義を行い、他の教員が補佐を行う形式、グループ学習あるいは個別面接指導などによって授業を行う * 講義、演習、課題を織り交ぜ、実習に向け、実践的な学習をおこなう * 幼稚園生活および幼児について、再確認をする * DVD等の視聴覚教材、現役の幼稚園関係者の話を取り入れ、現場に則した内容の授業を行う * 子ども理解、援助方法、記録の書き方、指導案作成法を理解するだけでなく、実際に書類を作成して、実践的に学ぶ * ロールプレイによる模擬保育をおこない、実習に必要な保育技術を身につける
能動的な学びの実施	* ディスカッションによる課題検討や、グループワーク等を取り入れ指導計画の立案や保育指導法の理解を深める * 指導計画案の作成し、ロールプレイングを用いた模擬保育を取り入れ保育指導法の理解(実践力や展開力)を深める
授業時間外の学修	* 授業の内容における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 授業時に配布する資料をしっかりと読み、理解する (各回1～2時間 合計30時間)
教科書・参考書	* 実習の手引き * 資料を適宜、授業内で配布する
成績評価方法と基準	* 定期試験は実施しない * 平常点(授業参加の状況: 態度、授業への積極性等) 20%、提出物40%、模擬保育などの発表(ピアノのテスト含む) 40%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	* 学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * ディスカッションやグループワーク、模擬保育など学生の発表毎にコメントを行う * 課題等には添削、コメントをつけて返却する
オフィスアワー	* CampusSquare参照のこと。
留意事項	* 本科目は、幼稚園教諭第1種免許状取得のための必修科目である。 * 「幼稚園実習」「幼稚園実習」の履修と連動するものである。 【事前指導に関する留意点】 1) 無断欠席は原則1回で実習中止となる。 2) 病気による欠席の場合は後日に医療機関の診断書等の提出が必要となる。 3) 連絡あった上での欠席は3回までが許容回数だが、状況により実習中止となることがある。 4) 遅刻は授業始まるまでに連絡を入れること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う。園に提出が必要な書類作成他の資料や書面はCampusSquareの掲示で配布、あるいはレターパックで各自に郵送する。作成した書類は同レポート欄より提出、あるいは郵送で提出する。

2025年度 東京西学部時間割

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	定期試験は実施しない。対面授業時と同等とする。
------------------------------------	-------------------------

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	幼児理解の理論と方法
授業コード	AI159
英語名称	Theory and Method of Infant comprehension
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	原 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	日々の保育においては、保育者にとって思いがけない発言や行動をする子どもへの対応に戸惑ったり悩んだりすることがある。子どもの中で様々な揺れ動く思いや葛藤への「理解」を深めることが、保育者としての効果的な対応や援助に繋がる。本講では、子ども理解のための理論や演習を踏まえ、保育現場における様々な場面での10事例から、子どもへの理解と対応について考察を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・ 幼稚園、保育所、子ども病院、児童家庭センターにおける乳幼児支援の実務経験を活かし、保育現場における様々な子どもとそのニーズへの理解および対応について考察するための講義と演習を行う。
到達目標	1．子どもを理解することの意義とその必要性について理解を深める。 2．子ども自ら選択する遊びの重要性に対する理解と対応について理解を深める。 3．集団保育や設定活動における子どもの自発性・主体性の重要性について理解を深める。 4．保育者による共感的理解の重要性について理解を深める。 5．実際の事例から子どもへの理解と対応について自らの考察を深める。 学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する本科目の位置付けは以下の通りである。 【知識・技能】 ・ 保育・幼児教育の場における多様な子どもの存在と、子ども一人ひとりとその家族が有する個別的ニーズに対する理解のための専門的知識、効果的対応のための専門的技術の必要性について理解を深める。 【使命感・思考力】 ・ 子どもと家族の多様性や課題への理解を深め、それに最前線で関わる専門職としての社会的使命を確認する。 ・ 個々のケース対応についてより理解や考察を深め、効果的な支援に繋げるための同職種・異職種間連携・協働の重要性、必要性について理解を深める。 【創造的な保育や教育】 ・ 子どもの多様性に対して、保育者としての特性を活かした効果的な支援、介入を実現するためのコミュニケーションや保育実践の方法を自ら具体的に提案し、それについて考察を深める。
計画・内容	第1回 子ども理解の意義と必要性 第2回 自由遊びと子ども理解 事例1 「剣を作り続ける子ども・作ってもらいたがる子ども」 第3回 自由遊びと子ども理解 事例2 - 「泥団子をピカピカにしたい子ども」 第4回 自由遊びと子ども理解 事例2 - 「泥団子をピカピカにしたい子ども」 第5回 自由遊びのための教材研究と環境整備の重要性 第6回 設定活動と子ども理解 事例3 「好きな遊びを見つけれない子ども」 第7回 設定活動と子ども理解 事例4 「保育者が言った通りに描かなかった子ども」

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第8回 設定活動と子ども理解 事例5 「保育者と一緒に考え決める子どもたち」 第9回 設定活動における子どもの自発性・主体性の重要性 第10回 信頼関係の構築による子ども理解 事例6 「母親を求めて泣く子ども」 第11回 省察・連携による子ども理解 事例7 「おすもうに負けて泣く子ども」 第12回 子どもへの共感的理解 事例8 「新しい靴で水たまりに入る子ども」 第13回 子どもへの共感的理解 事例9 「ちぎり絵にはさみを使いたがる子ども」 第14回 子どもへの共感的理解 事例10 「保育室に入りたがらない子ども」 第15回 保育者の信頼関係・省察・連携・共感の重要性
授業の進め方	【教員】 ・ 本科目の理論について説明し、ポイントを提示する。 ・ 事例理解を深めるための演習（教材研究・環境整備）を行う。 【学生】 ・ グループで演習（教材研究・環境整備）に準備段階から取り組む。 ・ 事例への理解と対応についてグループ討議し、発表する。
能動的な学びの実施	【子どもの遊びを支える教材研究・環境整備】 ・ 自発的な遊びや設定活動への取り組みの中で様々に揺れ動く子どもの思いや葛藤への理解を深め、保育者による効果的な配慮や援助を行うための教材研究と環境整備を体験する。（新聞紙の剣づくり・泥団子づくり） 【子ども理解のためのグループ討議】 ・ 幼稚園・保育所での様々な場面における子どもの10事例から、子ども理解を深めるためのグループ討議を行い発表する。
授業時間外の学修	・ 講義内で説明する。
教科書・参考書	教科書：請川滋大・著 『子ども理解—個と集団の育ちを支える理論と方法』 萌文書林 その他、講義内で関連書籍を紹介する。
成績評価方法と基準	筆記試験（30％）＋課題レポート（30％）＋授業レスポンス（25％）＋出席（15％）
課題等に対するフィードバック	・ 受講生は、毎講終了後に、教員指定の「レス・フォーム（GoogleForms）」に対して、感想・考察、疑問・質問、意見・提案、自由記述の各項に分けて入力、送信する。 ・ 教員は、全受講生より収集されたレスを匿名化して作表し、受講生にメール添付にて送信することで、受講生は他者意見を知り、新たな知見や気づきを得る。 ・ レスに質問や誤った理解が記述されていれば、個人を特定しない形でメールあるいは次回講義で回答する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	【非対面授業になった場合】 授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。 成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。 筆記試験（30％）＋課題レポート（30％）＋授業レスポンス（25％）＋出席（15％）

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	教育課程論
授業コード	AI204
英語名称	Theory of Educational Curriculum
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	宇佐美 健
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	講義を通じて教育課程について基礎的な知識を身につける。その際、学生自身が受けてきた教育経験を振り返り、学生同士の対話を通して、自分の学校観・教育観を見つめ直すことを重視する。教育者を志す者としての資質・能力、さらに社会人基礎力や自己実現能力を身につけることを目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	元公立中学校教諭（平成21年度～令和5年度）
到達目標	「教育者としての幅広い教養を身につけ、さらに教職の専門的知識や技能を養う」というカリキュラムポリシー、特に（２）「教員や保育者として身につけるべき基礎科目」にもとづいて、以下の目標を定める。 ・学校教育において教育課程が有する役割と意義について理解する ・カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、学生と協働しながら課題に取り組むことができる。 ・学校の教育実践に即した教育課程編成の方法について理解する ・カリキュラムの構想し、多様性のある子どもたちに対応できる専門性の基礎を築く。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 自分の学校体験を振り返り、自身の学校観や教育観を見つめる 第2回 教育課程の基礎的事項 : 目的と目標、学習指導要領 第3回 教育課程の基礎的事項 : カリキュラムの類型、潜在のカリキュラム 第4回 日本の教育課程の変遷 : 資質・能力の育成、主体的・対話的で深い学び 第5回 日本の教育課程の変遷 : 経験主義と系統主義、絶対評価と相対評価 第6回 日本の教育課程の変遷 : 「ゆとり教育」、目標に準拠した評価 第7回 日本の教育課程の変遷 : カリキュラム・マネジメントの実例についての考察 第8回 日本の教育課程の変遷 : 第5回の調査のプレゼンとディスカッション 第9回 世界で求められている教育課程 : 構成主義的な学習観、学習者中心の教育 第10回 世界で求められている教育課程 : 真正の学び、本質的な問い 第11回 世界で求められている教育課程 : 真正の評価（ポートフォリオ評価、ルーブリック評価） 第12回 これからのカリキュラムの構想 : オルタナティブ教育 第13回 これからのカリキュラムの構想 : 外発的動機づけ、内発的動機づけ

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第14回 これからのカリキュラムの構想 : グループによる単元計画づくり 第15回 これからのカリキュラムの構想 : 第13回までの計画のプレゼンとディスカッション
授業の進め方	講義形式で教育課程について学んだ上で、話し合いを通して現代の教育課程をめぐる課題についての理解を深める。事前に先進的な事例を調べておき、学生の話題提供により授業を進めることもある。授業担当者は話し合いのファシリテーターとなる。
能動的な学びの実施	講義形式で理論を学ぶ場面以外は、基本的に学生の能動的な学びが求められる。特に学生同士の対話を通して、自分の学校観・教育観を見つめ直すこと（リフレクション）を重視する。積極的にコミュニケーションをとることが望まれる。
授業時間外の学修	事前の調べ学習（授業内で明確に説明します）、授業で扱った教育課程の基礎的事項や、日本の教育課程の変遷についての復習、プレゼンテーションに向けた調査・準備などを含めて、60時間程度。
教科書・参考書	教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。 参考書 文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編，東洋館出版社
成績評価方法と基準	授業内で提出する課題及び授業への参加態度（30%） プレゼンテーション×2回（30%） 定期試験レポート（40%）
課題等に対するフィードバック	課題については、次の回でコメントを加え、適宜資料を配布する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによる授業と、課題提出を組み合わせ対応する。 授業内で提出する課題：50%、期末レポート：50%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	教育原理
授業コード	AI116
英語名称	Principles of Education
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	宇佐美 健
記入不要 ナンバリ ングコード	BJ103
授業の概要	「教育とは何か」という問いをもとに、教育の基礎的な概念や歴史、思想を学ぶ。その際、学生自身が受けてきた教育経験を振り返り、学生同士の対話を通して、自分の教育観を見つめ直すことを重視する。教育者を志す者としての資質・能力を育成することを目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	元公立中学校教諭（平成21年度～令和5年度）
到達目標	「教育者としての幅広い教養を身につけ、さらに教職の専門的知識や技能を養う」というカリキュラムポリシー、特に（２）「教員や保育者として身につけるべき基礎科目」にもとづいて、以下の目標を定める。 ・教育の基本的概念と、教育を成り立たせる要素の相互関係を理解している。 ・現代の教育課題を歴史的な視点から考え、学生と協働しながら課題に取り組むことができる。 ・教育に関する様々な思想、それらと実際の教育及び学校との関わりを理解している。 ・現代の教育課題を理解し、多様性のある子どもたちに対応できる専門性の基礎を築く。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 自分の教育観を見つめる 第2回 教育の基礎的な概念 : 教育、学習、指導 第3回 現在の日本の教育課題 : 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学び 第4回 現在の日本の教育課題 : カリキュラム・マネジメント、ICTの活用 第5回 日本の教育史と世界の教育思想 : 系統主義、教育の科学化、ヘルバルトなど 第6回 日本の教育史と世界の教育思想 : 経験主義、子ども中心主義、デューイなど 第7回 日本の教育史と世界の教育思想 : オルタナティブ教育についての調査 第8回 日本の教育史と世界の教育思想 : 第5回の調査のプレゼンとディスカッション 第9回 現在の日本の教育課題 : 学力テスト、スタンダード化、ユニバーサルデザイン 第10回 現在の日本の教育課題 : いじめ、不登校、発達障害 第11回 現在の日本の教育課題 : 貧困と格差、教師の多忙化 第12回 教育の基礎的な概念 : 子ども、家庭、仕事、社会、ルソーなど 第13回 教育の基礎的な概念 : 社会化、学校、公教育、脱学校論、イリッチなど

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第14回 現在の日本の教育課題 : 教育課題 について、歴史や思想を踏まえて考察する 第15回 現在の日本の教育課題 : 第13回の考察のプレゼンとディスカッション
授業の進め方	講義形式で教育の歴史や思想を学んだ上で、話し合いを通して現代の教育課題についての理解を深める。事前に先進的な事例を調べておき、学生の話題提供により授業を進めることもある。授業担当者は話し合いのファシリテーターとなる。
能動的な学びの実施	講義形式で教育の歴史や思想を学んだ上で、話し合いを通して現代の教育課題についての理解を深める。事前に先進的な事例を調べておき、学生の話題提供により授業を進めることもある。授業担当者は話し合いのファシリテーターとなる。
授業時間外の学修	事前の調べ学習（授業内で明確に説明します）、授業で扱った歴史や思想、現代の教育課題の復習、プレゼンテーションに向けた調査・準備などを含めて、60時間程度。
教科書・参考書	教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。 参考書 木村元・汐見稔幸（2020）アクティベート教育学01 教育原理，ミネルヴァ書房 苫野一徳（2019）「学校」をつくり直す，河出新書
成績評価方法と基準	授業内で提出する課題及び授業への参加態度（30%） プレゼンテーション×2回（30%） 定期試験レポート（40%）
課題等に対するフィードバック	課題については、次の回でコメントを加え、適宜資料を配布する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによる授業と、課題提出を組み合わせで対応する。 授業内で提出する課題：50%、期末レポート：50%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと環境
授業コード	AI123
英語名称	Children and Environment
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	領域「環境」に関して、子どもを取り巻く環境の諸側面や、発達に応じた環境との関わりについて習得します。特に領域「環境」で扱う自然環境、文化的環境、地域・社会的環境への探究を深めます。さらに大学内外における四季折々の自然に目を向け、実際に触れることにより、その多様性を五感で感じながら身近な自然への興味関心を高めます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小児病棟、療育センター、保育所等における保育及び療養・療育の場における子どもの環境を構成する実務経験を活かして指導する。
到達目標	本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」および「教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、自らの保育として実践する力を養う。 子どもを取り巻く環境と、子どもの発達にとっての意義を理解する。 自然環境を通し、子どもの思考・科学的概念の発達を理解する。 園内外の環境における標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達を理解する。
計画・内容	第1回 授業オリエンテーション 領域「環境」のねらい及び内容 第2回 子どもの発達と環境（1）0歳児の発達と環境 第3回 子どもの発達と環境（2）1歳以上3歳未満児の発達と環境 第4回 子どもの発達と環境（3）3歳以上児の発達と環境 第5回 子どもを取り巻く物的環境・人的環境 第6回 子どもを支える園内環境 第7回 子どもを支える園庭環境
授業の進め方	講義と演習を交えながら進めていきます。演習では、学内の敷地を散策しながら身近な自然に触れ、子どもにとっての興味や安全について感じたり調べたりしながら、五感を使った体験を通して学んでいきます。また、グループワークを通し、子どもの発達をイメージし、子どもにとっての環境の在り方を調べ、考察していきます。自らあるいはグループでの調べ学習については、発表資料を作成し、全体で共有していきます。
能動的な学びの実施	日頃から自然に関心を持ち、自然に触れ、五感を高めていくことを期待します。また、身の周りの自然で目に留まったものや面白いものなど、授業に持ち寄って、みんなで共有し、ディスカッションを通し、理解を深めてください。

2025年度 東京西学部時間割

授業時間外の学修	授業前に各回のテーマに沿って、関連する文献検索し目を通し、疑問に思ったことなどは事前に調べておいてください。 授業後には毎回授業の学びを自分なりに整理し、知識を定着させてください。（合計60時間程度）
教科書・参考書	【教科書】『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』萌文書林,2024. 『保育所保育指針解説』フレーベル館.2018. 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.2018. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館.2018. 【参考書】適宜紹介する．
成績評価方法と基準	定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。
課題等に対するフィードバック	毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行います。必ず出席してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力をし、その後解説を行います。 zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと環境
授業コード	AI124
英語名称	Children and Environment
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「子どもと環境」における学びを念頭に置き、大学内外における四季折々の自然に触れながら、身近な環境との関わりに関して領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、保育における援助と環境構成の実際を学びます。また、子どもが好奇心や探求心を持ち、自然環境、文化的環境、社会的環境といかに関わるのかについて、事例等を通して理解を深め、身近な素材を工夫しながら教材開発を行い、教育に活用できる素材を取り扱う五感や知識・技能を高め、保育を構想する力を養います。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小児病棟、療育センター、保育所等においての保育及び療養・療育の場における子どもの環境を構成する実務経験を活かして指導する。
到達目標	本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」および「教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、自らの保育として実践する力を養う。 子どもを取り巻く環境と、子どもの発達にとっての意義を理解する。 子どもの思考・科学的概念の発達を理解する。 子どもの標識・文字等、情報・メディアとの関わりでの発達を理解する。
計画・内容	第1回 子どもと自然環境（1）身近な植物や生き物 第2回 子どもと自然環境（2）自然を取り入れた遊び 第3回 子どもと社会環境（1）保育における情報化 第4回 子どもと社会環境（2）社会環境と保育実践 第5回 子どもの生活の中の文字、数、図形 第6回 環境プロジェクト（1）散策や調べ学習 第7回 環境プロジェクト（2）資料作成や教材作り 第8回 授業の振り返りとまとめ
授業の進め方	この授業に向けた自分なりのテーマや課題を持って自発的に授業に参加し、グループワークやディスカッションを多用しながら知識を定着させていきます。演習では、学内の敷地を散策しながら身近な自然に触れ、子どもにとっての興味や安全について感じたり調べたりしながら、五感を使った体験を通して学んでいきます。また、グループワークを通し、子どもの発達をイメージした自然素材を活用した教材作りを行います。自らあるいはグループでの調べ学習については、発表資料を作成し、全体で共有していきます。
能動的な学びの実施	日頃から自然に関心を持ち、自然に触れ、五感を高めていくことを期待します。また、身の周りの自然で目に留まったものや面白いものなど、授業に持ち寄って、みんなで共有し、ディスカッションを通し、理解を深めてください。
授業時間外の学修	授業前に各回のテーマに沿って、関連する文献検索し目を通し、疑問に思ったことなどは事前に調べておいてください。 授業後には毎回授業の学びを自分なりに整理し、知識を定着させてください。（合計60時間程度）

2025年度 東京西学部時間割

教科書・参考書	【教科書】『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』萌文書林,2024. 『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018. 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018. 【参考書】適宜紹介する。
成績評価方法と基準	定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。
課題等に対するフィードバック	毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・いろいろな環境に興味をもって、主体的に参加すること。 ・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力をし、その後解説を行います。 zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育の指導法（環境）
授業コード	AI157
英語名称	Teaching Methods for Child Care and Education (Environment)
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	子どもと環境との関わりや、子どもと環境の豊かな関わりを育むための指導内容と保育者の援助の在り方について概説します。また、五感を通して体感することを重視し、四季折々の自然に触れたり、季節ごとの身近な自然物を使用した製作を行なうという経験を通し、保育者に必要な感性を磨く機会を設けます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小児病棟、療育センター、保育所等におけるの保育及び療養・療育の場における子どもの環境を構成する実務経験を活かして指導する。
到達目標	本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」および「教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、自らの保育として実践する力を養う。 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 子どもの発達や学びの過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。
計画・内容	第1回 授業オリエンテーション 環境の概要 保育における子どもの環境 5領域における領域「環境」の位置づけと「環境」の全体構成 第2回 ものとの関わりの実践 子どもの身近にあるものと保育者の関わり 第3回 子どもの身近にある素材で遊びを展開する方法 廃材を利用したおもちゃ作り 第4回 自然との関わりの実践 子どもと自然との関わり 子どもが自然と関わりを深めるための視点 第5回 子どもの安全な環境づくり 第6回 子どもが安全に過ごせる園庭マップの作成 第7回 自然との関わりの指導法（1）植物との関わり 第8回 自然との関わりの指導法（2）生き物との関わり 第9回 自然との関わりの指導法（3）自然現象との関わり 第10回 自然物を用いた遊び（1）散策と観察 第11回 自然物を用いた遊び（2）製作と発表 第12回 行事を活かした保育の展開 第13回 指導案作成（1）教材研究と保育計画

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第14回 指導案作成(2)教材研究と保育計画 第15回 授業の振り返りとまとめ
授業の進め方	自らの子ども時代の気持ちを思い出しながら、子どもの好奇心を考えることを大切に、身近な自然をよく観察し、環境に対する子どもの興味、関心に注力し、この授業に向けた自分なりのテーマや課題を持って自発的に参加してください。各々の考えを持ち寄り、グループワークやディスカッションを多用しながら共有し、知識を定着させていきます。演習では、学内の敷地を散策しながら身近な自然に触れ、子どもにとっての興味や安全について感じたり調べたりしながら、五感を使った体験を通して学んでいきます。さらに、子どもの発達をイメージした自然素材を活用した教材作りを行い、調べ学習については、発表資料を作成し、全体で共有していきます。そして、留意・配慮点、環境構成などを踏まえた指導案を探索していきます。
能動的な学びの実施	日頃から自然に関心を持ち、自然に触れ、五感を高めていくことを期待します。また、身の周りの自然で目に留まったものや面白いものなど、授業に持ち寄って、みんなで共有し、ディスカッションを通し、理解を深めてください。
授業時間外の学修	授業前に各回のテーマに沿って、関連する文献検索し目を通し、疑問に思ったことなどは事前に調べておいてください。 授業後には毎回授業の学びを自分なりに整理し、知識を定着させてください。(合計60時間程度)
教科書・参考書	【教科書】『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』萌文書林,2024. 『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018. 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018. 【参考書】適宜紹介する。
成績評価方法と基準	定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。
課題等に対するフィードバック	毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行います。必ず出席してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力し、その後解説を行います。 zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	生活科
授業コード	AI314
英語名称	Life Environment Studies
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	園山 博
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	生活科の内容を体験的に理解し、授業の構成や改善点を理解する。また、生活科の授業を通して育む子どもたちの資質・能力について理解を深める。 各自がしっかり作業を行ったり発表したりすることと、意見交流により対話的に問題点の解決などを行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教職及び管理職の経験を有し、学校全体を意識した授業実施の観点から教授する。
到達目標	「生活」の指導に必要な教科特徴、指導法の特徴の理解とこれらを踏まえた教材研究や学習指導案の作成及び授業を実践できる資質・能力の育成を目指す。 学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 ・生活科指導における基礎・基本の知識及び技能を習得する。【知識・技能】 ・生活科の指導に必要な事象や課題を主体的に見いだし、解決に向けて周囲の仲間と協働して取り組む。【使命感・思考力】 ・児童の成長を促すことのできる授業を目指し、授業実践に向けて計画・省察・改善を行う。【人間力・指導力】 ・教えることの楽しさと意義を十分に感じ、児童にとって適切な教育の実践を心掛ける【創造的な保育や教育】
計画・内容	第1回：オリエンテーション・生活科の目標等 第2回：生活科の内容構成の考え方および内容の階層性 第3回：生活科の内容の概要 第4回：「植物の栽培1」をテーマに活動 第5回：「植物の栽培2」をテーマに活動 第6回：「動物の飼育」をテーマに活動 第7回：「生活、公共物、公共施設」をテーマに活動 第8回：「おもちゃ作り1」をテーマに活動 第9回：「おもちゃ作り2」をテーマに活動 第10回：「植物の収穫」をテーマに活動 第11回：「季節を知る」をテーマに活動 第12回：「伝え合いと成長」をテーマに活動 第13回：理科・社会・総合的な学習への継続 第14回：活動の留意点と学びへの昇華 第15回：まとめ：活動の振り返り
授業の進め方	生活科の学習内容の理解を深めるために、演習等を講義の中に取り入れる。積極的に活動すること。 また、取組で気づいた問題点については、改善点を見いだすために対話をもって積極的に他者の意見を取り入れること。さらに、疑問点については、質問や調査を確実にすること。
能動的な学びの実施	生活科の内容理解を深めるために積極的に実際の活動を主体的に行う。そこで気づく問題点等について、論議を重ね、改善できるように取り組む。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	配布資料は、クリアファイル等を活用して整理し、ポートフォリオ化して学びの系統性を確認するとともに、主体的に課題を見つけて克服に努めること。
授業時間外の学修	授業時間外学習 (予習)「計画・内容」に記載した内容に関する書籍、文献等を検索し、それらに目を通し、必要に応じて切り抜きやコピーをとり準備する。 (復習)「計画・内容」に記載した内容に加え、授業で配布した資料や板書の内容を見直し、疑問点や感想を自分の言葉でまとめる。 合計60時間程度行うこと
教科書・参考書	教科書 ・小学校学習指導要領解説(生活遍)(文部科学省) https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_006.pdf ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(国立教育施策研究所) https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_seikat.pdf
成績評価方法と基準	授業で課す活動や課題の取組状況(40%)、演習等の作業およびそのまとめの作成状況(40%)、授業への参加状況(出席や発言等)(20%)
課題等に対するフィードバック	課題を課した時は、回答例および論述基準について解説する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	・ スマートフォンやタブレット端末を活用することを推奨する。 ・ 質問や疑問点がある場合は、解決に向けて努力すること。聞くことも大切です。 ・ 課題等については、自ら考え取組むこと。 ・ 毎回の授業を積極的に参加すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・ 授業内容に応じてZoomによるリアルタイムオンライン授業、オンデマンド動画配信、課題学習を組み合わせ実施する。 成績評価方法 ・ 授業中等に提示するレポート50%と演習等の作業およびそのまとめの作成状況50%を統合して評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	初等教科教育法（生活科）
授業コード	AI317
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (Life Environment Studies)
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	園山 博
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	生活科で培う子どもたちの資質能力とその指導法について理解を深める。 また、学習指導案の作成や模擬授業を通して、授業の構成や改善点を理解する。 各自がしっかり発表し、意見交流することで対話的に問題点の解決などを行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教職及び管理職の経験を有し、学校全体を意識した授業実施の観点から教授する。
到達目標	「生活」の指導に必要な教科内容及び指導法の特徴の理解とこれらを踏まえた教材研究や学習指導案の作成・授業の実践力に係る資質・能力の育成を目指す。 学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 ・生活科指導における基礎・基本の知識及び技能を習得する。【知識・技能】 ・生活科の指導に必要な事象や課題を主体的に見だし、解決に向けて周囲の仲間と協働して取り組む。【使命感・思考力】 ・児童の成長を促すことのできる授業を目指し、授業実践に向けて計画・省察・改善を行う。【人間力・指導力】 ・教えることの楽しさと意義を十分に感じ、児童にとって適切な教育の実践を心掛ける【創造的な保育や教育】
計画・内容	第1回：初等生活科教育の意義と目標 第2回：初等生活科教育の内容及学習指導 第3回：初等生活科教育の評価 第4回：教科の目標を踏まえた授業づくり 第5回：活動における指導上の留意事項 第6回：年間計画と学習指導案の作成 第7回：授業実践に見られる学習指導案の検討(1) 第8回：授業実践に見られる学習指導案の検討(2) 第9回：作成した指導案の検討(1) 第10回：作成した指導案の検討(2) 第11回：模擬授業(1) 第12回：模擬授業(2) 第13回：模擬授業(3) 第14回：模擬授業の振り返り（授業における留意事項） 第15回：まとめ（生活科における指導の継続）
授業の進め方	主に講義形式で実施するが、講義内で演習やグループワークを取り入れる。また、模擬授業も行う。 各授業において、各テーマについて事前に予習し、授業時には発言等を求める。 授業テーマに即した実践課題の提示時には、個人やグループごとに検討や論議を重ね、課題の解決に取り組む。
能動的な学びの実施	主体的に授業づくりを行うことができるように、積極時に知識・技能の獲得に努めるとともに、授業については、グループ等で論議を重ね、より良いものへと改善できるように取り組む。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	配布資料は、クリアファイル等を活用して整理し、ポートフォリオ化して学びの系統性を確認するとともに、主体的に課題を見つけて克服に努めること。
授業時間外の学修	授業時間外学習 (予習)「計画・内容」に記載した内容に関する書籍、文献等を検索し、それらに目を通し、必要に応じて切り抜きやコピーをとる。 (復習)「計画・内容」に記載した内容に加え、授業で配布した資料や板書の内容を見直し、疑問点や感想を自分の言葉でまとめる。 合計60時間程度行うこと
教科書・参考書	教科書 ・小学校学習指導要領解説(生活編)(文部科学省) https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_006.pdf ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(生活科)(国立教育施策研究所) https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_seikat.pdf
成績評価方法と基準	授業で課す課題の取組状況(40%)、模擬授業の実施状況及び学習指導案の作成状況とその振り返りレポート(40%)、授業への参加状況(出席や発言等)(20%)
課題等に対するフィードバック	課題を課した時は、回答例および論述基準について解説する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	・ スマートフォンやタブレット端末を活用することを推奨する。 ・ 質問や疑問点がある場合は、解決に向けて努力すること。聞くことも大切です。 ・ 課題等については、自ら考え取組むこと。 ・ 毎回の授業を積極的に参加すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・ 授業内容に応じてZoomによるリアルタイムオンライン授業、オンデマンド動画配信、課題学習を組み合わせ実施する。 成績評価方法 ・ 授業中等に提示するレポート50%と学習指導案や模擬授業の実施および振り返りレポート50%を統合して評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと言葉
授業コード	AI259
英語名称	Children and Language
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	○幼稚園・保育所・子ども園での指導やねらいの領域の一つに「言葉の獲得に関する領域」としての「言葉」がある。保育者・教育者として、子どもの言語獲得の理解と知識を深め、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」を読み取り、保育・教育についての理解を深める授業内容を持つ。 ○「子どもと言葉」は理論編であり、演習内容を持つ「子どもと言葉」に接続している。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・中学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。
到達目標	○子どもの言語能力をささえる保育・教育者に必要な知識として「日本語」及び「言語獲得」に関する知識を深めること、子どもの言語の獲得のプロセスについて理解すること、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」の解釈及び理解をすること、保育・教育の場での言語活動の用意のための手法を考えることを授業の目標とする。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 言葉とは？（保育所指針・幼稚園教育要領との関連） 第2回 言葉と人格形成 乳幼児期の言語能力と思考力 第3回 ねらいと配慮事項 社会的発達・精神的発達と言葉 第4回 領域「言葉」について 児童文化財と言葉/満1歳～満3歳未満と満3歳以上の比較 第5回 領域「言葉」 満1歳以上～満3歳未満 第6回 領域「言葉」 満3歳以上 第7回 子どもの「ことば」と発達 言語能力の育成 第8回 まとめ 理解度の確認：まとめ思考テスト（記述形式）

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと ○教科書である「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」を読み、記述内容の把握と理解をしておくこと 約15時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	教科書：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 参考書：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説 小林晴美・佐々木正人『新・子どもたちの言語獲得』大修館書店
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート提出50%とまとめ思考テスト50%にて、総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出50%とまとめ思考テスト50%にて、総合的に評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと言葉
授業コード	AI260
英語名称	Children and Language
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○幼稚園・保育所・子ども園での指導やねらいの領域の一つに「言葉の獲得に関する領域」としての「言葉」がある。保育者・教育者として、子どもの言語獲得の理解と知識を深め、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」を読み取り、保育・教育についての理解を深める授業内容を持つ。 ○「子どもと言葉」は演習内容を含み、理論編である「子どもと言葉」から接続している。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・中学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。
到達目標	○子どもの言語能力をささえる保育・教育者に必要な知識として「日本語」及び「言語獲得」に関する知識を深めること、子どもの言語の獲得のプロセスについて理解すること、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」の解釈及び理解をすること、保育・教育の場での言語活動の用意のための手法を考えることを授業の目標とする。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 児童文化財と絵本ポートフォリオ作成 第2回 模擬保育1：準備 絵本読み聞かせの準備と練習 第3回 模擬保育1：実践発表 絵本の読み聞かせ発表 第4回 模擬保育1：実践発表 絵本読み聞かせ発表とふりかえり 第5回 あそび歌ポートフォリオ作成 第6回 模擬保育2：準備 あそび歌実践の準備と練習 第7回 模擬保育2：実践発表 あそび歌発表 第8回 模擬保育2：実践発表 あそび歌演習発表とふりかえり

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと ○教科書である「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」を読み、記述内容の把握と理解をしておくこと 約15時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	教科書：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 参考書：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説 小林晴美・佐々木正人『新・子どもたちの言語獲得』大修館書店
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート提出50%、演習発表50%にて、総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出50%、レポート作成25%、演習発表25%にて、総合的に評価する。。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと造形表現（小幼コース）
授業コード	AI169A
英語名称	Children and Art Expression
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	* 本科目は小幼コース学生対象とし、幼児の造形表現に関する知識を身につけ、それを援助する為に必要な基礎的な知識や技術を身につけることを目的とし、制作を通して素材と用具の基礎的な理解や経験を促すと共に表現方法の発見や発展へ導く過程を理解する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	* 10年以上に渡り、幼児・児童対象の造形指導の経験を活かし、保育者を目指す上で必要な表現・造形における様々な表現技法や、造形指導時の幼児に対する援助方法について、指導する。
到達目標	* 到達目標は次の5つとなる (1) 幼児の造形表現において適切な素材や技法を知り、道具の使い方を身につける。 (2) 自己の表現と共に、他者の表現の楽しさ・美しさを理解、共有できるようになる。 (3) 鑑賞能力と共に、プレゼンテーションの力を身につける。 (4) 保育者として求められる造形指導の専門的知識（基礎）を身につける。 (5) 身につけた専門的知識を教育活用するのみならず、効果的教育手法の開発を志向し、実践する思考を育てる。 尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。
計画・内容	第1回：ガイダンス 本授業の構成について《前期》 平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -1 技法(ドリッピング・にじみたらし込み)と用具の説明 用具についてワークシートを用いて理解をする（絵の具・用具について） 第2回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -2 「水中世界は色いろいろ」をテーマにアイデアスケッチ・制作 第3回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -1 技法(スクラッチ・パチック)と用具の説明 用具についてワークシートを用いて理解をする（クレヨン・クレパス・パステル） 第4回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -2 「かがやく私の手」をテーマにアイデアスケッチ・制作 第5回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -1 技法(デカルコマニー・フロタージュ・コラージュ)と用具の説明 用具についてワークシートを用いて理解をする（はさみ） 第6回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -2 「見つけた葉を見つめたら」をテーマにアイデアスケッチ・制作 第7回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -1

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	技法(マブリング・スパッタリング)と用具の説明 用具についてワークシートを用いて理解をする(カッターナイフ) マブリング・スパッタリング用型の制作 第8回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -2 技法(スタンピング)と用具の説明 「宇宙の果てはこんな場所」をテーマにアイデアスケッチ・制作 第9回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -3 「宇宙の果てはこんな場所」をテーマに制作 第10回：素材探究 ―粘土について― 粘土の種類と特性、用具の説明 WS：小麦粉粘土・紙粘土制作。 第11回：立体造形(1)「紙を使った立体表現」 「かお」をテーマにアイデアスケッチ・制作 第12回：立体造形(1)「紙を使った立体表現」 「かお」をテーマに制作(張子) 第13回：立体造形(1)「紙を使った立体表現」 「かお」をテーマに制作(張子)・着彩 第14回：立体造形(1)「紙を使った立体表現」 「かお」をテーマに制作 着彩・仕上げ 第15回：まとめ 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞
授業の進め方	* 制作の進行具合によって計画・内容は随時変更する * 個人制作、グループ制作を行い、様々な表現方法を体験する * 材料、道具は一部大学で用意するが、個人で材料、道具を準備し、授業で使用する場合もある * 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞を通し、作るだけでなく、伝えることも体験する
能動的な学びの実施	* 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
授業時間外の学修	* 授業前にアイデアソース集めや制作準備を行うこと(各回1~2時間程度) * 授業後に授業で説明を受けた素材・用具・技法について調べ、理解を深めると共に説明、制作時の記録を制作ノートにまとめること(各回1~2時間程度)
教科書・参考書	* 教科書：なし ・ 題材ごとに資料を配布する ・ 必要な用具・材料等について事前準備を指示する * 参考書：チャイルド本社発行『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
成績評価方法と基準	* 定期試験は実施しない * 平常点(授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等)20%、提出物(作品、写真、制作ノート)80%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	* 制作時において学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * プレゼンテーションにおいて学生の発表毎にコメントを行う * 制作ノートはコメントを付与して返却する
オフィスアワー	* CampusSquareを参照

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	* 本科目は幼稚園教諭・保育士資格取得のための必須科目としての位置付けとなる。 * 授業参加に際し、各自エプロン（もしくは作業時に汚れても良い服）・色鉛筆・クレヨン・水彩絵の具を準備すること。内容については初回授業時に説明を行う。 * 授業への積極的な参加を期待する。課題を通して様々な素材に触れ、素材の特性や可能性等を広く探求すること。 * 授業内だけでは制作時間が足りない場合は、空き時間に制作対応を行うが、図画工作の授業以外でも図工室を使用するため、授業内に完成できるよう計画的に制作を進めること。 * 使用する道具や材料によって取り扱いに注意の必要なものもあるため、きちんと説明を聞き対応をすること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う ・定期試験は実施しない ・平常点（オンライン授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと造形表現（小幼コース）
授業コード	AI262A
英語名称	Children and Art Expression
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	* 本科目は小幼コース学生対象とし、「子どもと造形表現」の内容をふまえ、幼児の造形表現に関する知識を身につけ、それを援助する為に必要な実践的な知識や技術を身につける。制作を通して素材と用具の実践的な理解や経験を促すと共に表現方法の発見や発展へと導く過程を理解する。実習へ向け、造形活動のプログラムを企画、立案、実施できるようになる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	* 10年以上に渡り、幼児・児童対象の造形指導の経験を活かし、幼稚園教諭を目指す上で必要な表現・造形における様々な表現技法や、造形指導時の幼児に対する援助方法について、指導する。
到達目標	* 到達目標は次の5つとなる (1) 幼児の造形表現において適切な素材や技法を知り、道具の使い方を身につける。 (2) 自己の表現と共に、他者の表現の楽しさ・美しさを理解、共有できるようになる。 (3) 鑑賞能力と共に、プレゼンテーションの力を身につける。 (4) 保育者として求められる造形活動のプログラムの企画、立案、実施ができるようになる。 (5) 身につけた専門的知識を教育活用するのみならず、効果的教育手法の開発を志向し、実践する思考を育てる。 尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。
計画・内容	第1回：ガイダンス 本授業の構成について 平面造形(1)「デザイン」 課題説明「My Country」、技法説明、ワークシート、アイデアスケッチ 第2回：平面造形(1)「デザイン」 画材（アクリル絵の具・マスキングテープ）の理解 「My Country」制作 第3回：平面造形(1)「デザイン」 「My Country」制作 第4回：立体造形(1)「粘土を使った表現」 「My Country」よりキャラクターの制作 第5回：立体造形(1)「粘土を使った表現」 「My Country」よりキャラクターの制作・着彩 第6回：プレゼンテーション 自作作品について発表・講評、相互鑑賞 第7回：平面造形(1)「ペーパーステンドグラス」 グループワーク 課題説明、技法説明、アイデアスケッチ

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第8回：平面造形(1)「ペーパーステンドグラス」 グループワーク 制作（下書き、配色決め、制作用紙の準備） 第9回：平面造形(1)「ペーパーステンドグラス」 グループワーク 制作（カット・フィルム貼り） 第10回：平面造形(1)「ペーパーステンドグラス」 グループワーク 制作（カット・フィルム貼り、フレーム作り） 第11回：立体造形(2)「令和式土偶」 課題説明、技法説明、アイデアスケッチ 第12回：立体造形(2)「令和式土偶」 制作 第13回：立体造形(2)「令和式土偶」 制作 第14回：立体造形(2)「令和式土偶」 制作 第15回：まとめ 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞
授業の進め方	* 制作の進具合によって計画・内容は随時変更する * 個人制作、グループ制作を行い、様々な表現方法を体験する * 材料、道具は一部大学で用意するが、個人で材料、道具を準備し、授業で使用する場合もある * 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞を通し、作るだけでなく、伝えることも体験する
能動的な学びの実施	* 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
授業時間外の学修	* 授業前にアイデアソース集めや制作準備を行うこと（各回1～2時間程度） * 授業後に授業で説明を受けた素材・用具・技法について調べ、理解を深めると共に説明、制作時の記録を制作ノートにまとめること（各回1～2時間程度）
教科書・参考書	* 教科書：なし ・ 題材ごとに資料を配布する ・ 必要な用具・材料等について事前準備を指示する * 参考書：チャイルド本社発行『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
成績評価方法と基準	* 定期試験は実施しない * 平常点（授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	* 制作時において学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * プレゼンテーションにおいて学生の発表毎にコメントを行う * 制作ノートはコメントを付与して返却する
オフィスアワー	* CampusSquareを参照
留意事項	* 授業参加に際し、各自エプロン（もしくは作業時に汚れても良い服）・色鉛筆・クレヨン・水彩絵の具を準備すること。内容については初回授業時に説明を行う。

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	* 授業への積極的な参加を期待する。課題を通して様々な素材に触れ、素材の特性や可能性等を広く探求すること。 * 授業内だけでは制作時間が足りない場合は、空き時間に制作対応を行うが、図画工作の授業以外でも図工室を使用するため、授業内に完成できるよう計画的に制作を進めること。 * 使用する道具や材料によって取り扱いに注意の必要なものもあるため、きちんと説明を聞き対応をすること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う ・定期試験は実施しない ・平常点（オンライン授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育の指導法（表現）
授業コード	AI330
英語名称	Teaching Methods for Child Care and Education (Expression)
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	* 本科目は小幼コース・幼保コース学生を対象とし、幼児期の子どもを対象として、豊かな子ども文化の創造に貢献するための高度な専門知識と実践的スキルを身につけることを目的とし、保育指導の中核をなす「表現」を造形という側面から捉え、造形活動のプログラムを企画、立案、実施できるよう様々な材料研究を行い実践に繋げる。 * 学外発表会『こどもフェスティバル』（7月に上野原市文化ホールで開催）での実践発表を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	* 10年以上に渡り、幼児・児童対象の造形指導の経験を活かし、保育者を目指す上で必要な表現・造形における様々な表現技法や、造形指導時の幼児に対する援助方法について、指導する。
到達目標	* 到達目標は次の4つとなる (1) 幼児期の子どもを対象として、豊かな子ども文化の創造に貢献するための高度な専門的知識と実践的スキルを身につける。 (2) 幅広い表現方法（手段）の習得と実践方法を学ぶことを目的とする。 (3) 造形活動のプログラムの企画、立案、実施ができるようになる。 (4) 身につけた専門的知識を教育活用するのみならず、効果的教育手法の開発を志向し、実践する思考を育てる。 尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。
計画・内容	第1回：ガイダンス 材料研究-1 画材と支持体の関係 第2回：材料研究-2 色・絵の具 第3回：材料研究-3 紙 第4回：材料研究-4 粘土 第5回：材料研究-5 光 第6回：指導計画について 第7回：模擬授業 1歳以上3歳未満児における造形活動 第8回：模擬授業 1歳以上3歳未満児における造形活動 第9回：模擬授業 3歳以上児における造形活動

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第10回：模擬授業 3歳以上児における造形活動 第11回：模擬授業 3歳以上児における造形活動 第12回：空間構成の実践 表現発表会 舞台空間・展示空間の計画・準備・制作 第13回：空間構成の実践 表現発表会 舞台空間・展示空間の制作 第14回：空間構成の実践 表現発表会 第15回：空間構成の実践 表現発表会
授業の進め方	* 制作の進具合によって計画・内容は随時変更する * 個人制作、グループ制作を行い、様々な表現方法を体験する * 材料、道具は一部大学で用意するが、個人で材料、道具を準備し、授業で使用する場合もある * 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞を通し、作るだけでなく、伝えることも体験する * 表現発表会に向け、展示空間や舞台空間の構成を体験する。
能動的な学びの実施	* 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
授業時間外の学修	* 授業前にアイデアソース集めや制作準備を行うこと（各回1～2時間程度） * 授業後に授業で説明を受けた素材・用具・技法について調べ、理解を深めると共に説明、制作時の記録を制作ノートにまとめること（各回1～2時間程度）
教科書・参考書	* 教科書：なし ・ 題材ごとに資料を配布する ・ 必要な用具・材料等について事前準備を指示する * 参考書：チャイルド本社発行『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
成績評価方法と基準	* 定期試験は実施しない * 平常点（授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する 学外表現発表会『こどもフェスティバル』を7月に上野原市文化ホールで開催。
課題等に対するフィードバック	* 授業時において学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * 制作ノートはコメントを付与して返却する
オフィスアワー	* CampusSquareを参照
留意事項	* 本科目は幼保コース卒業必須科目、幼稚園教諭・保育士資格取得のための必須科目としての位置付けとなる。 * 授業参加に際し、各自エプロン（もしくは作業時に汚れても良い服）・色鉛筆・クレヨン・水彩絵の具を準備すること。内容については初回授業時に説明を行う。 * 授業への積極的な参加を期待する。様々な素材に触れ、素材の特性や可能性等を広く探求すること。 * 授業内だけでは制作時間が足りない場合は、空き時間に制作対応を行うが、図画工作の授業以外にも図工室を使用するため、授業内に完成できるように計画的に制作を進めること。 * 使用する道具や材料によって取り扱いに注意の必要なものもあるため、きちんと説明を聞き対応すること。

2025年度 東京西学部時間割

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う。 ・定期試験は実施しない。 ・平常点（オンライン授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%の総合評価。
------------------------------------	--

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	図画工作
授業コード	AI127
英語名称	Elementary Drawing and Handicrafts 1
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	* 本科目は小幼コース学生対象とし、児童の造形表現に関する知識を身につけ、それを援助する為に必要な基礎的な知識や技術を身につけることを目的とし、制作を通して素材と用具の基礎的な理解や経験を促すと共に表現方法の発見や発展へ導く過程を理解する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	* 10年以上に渡り、幼児・児童対象の造形指導の経験を活かし、幼稚園教諭を目指す上で必要な表現・造形における様々な表現技法や、造形指導時の幼児に対する援助方法について、指導する。
到達目標	* 到達目標は次の5つとなる (1) 幼児・児童の造形表現において適切な素材や技法を知り、道具の使い方を身につける。 (2) 自己の表現と共に、他者の表現の楽しさ・美しさを理解、共有できるようになる。 (3) 鑑賞能力と共に、プレゼンテーションの力を身につける。 (4) 幼稚園・小学校教諭として求められる造形・図画工作指導の専門的知識（基礎）を身につける。 (5) 身につけた専門的知識を教育活用するのみならず、効果的教育手法の開発を志向し、実践する思考を育てる。 尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。
計画・内容	第1回：ガイダンス 本授業の構成について 立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 課題説明「思い出のお弁当」、素材・用具説明、アイデアスケッチ・制作 第2回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作 第3回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作・着彩 第4回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作・着彩 制作 第5回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作・着彩・仕上げ 第6回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作・着彩・仕上げ、作品・制作の振り返り 第7回：作品のプレゼンテーション、相互鑑賞 第8回：平面造形(1)「版画による表現」

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	紙版画の理解と用具の説明、課題説明「かお」 「かお」をテーマにアイデアスケッチ・制作 第9回：平面造形(1)「版画による表現」 「かお」をテーマに制作 第10回：平面造形(1)「版画による表現」 刷りの理解と用具の説明 「かお」をテーマに制作、刷り 第11回：平面造形(1)「版画による表現」 刷りの理解と用具の説明 「かお」をテーマに制作、刷り 第12回：平面造形(2)「版画による表現」 スチレン版画の理解と用具の説明、課題説明「オノマトペ」 「オノマトペ」をテーマにアイデアスケッチ・制作 第13回：平面造形(2)「版画による表現」 刷りの理解と用具の説明 「オノマトペ」をテーマに制作、刷り 第14回：平面造形(2)「版画による表現」 「オノマトペ」をテーマに制作、刷り 第15回：まとめ 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞
授業の進め方	* 制作の進具合によって計画・内容は随時変更する * 個人制作、グループ制作を行い、様々表現方法を体験する * 材料、道具は一部大学で用意するが、個人で材料、道具を準備し、授業で使用する場合もある * 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞を通し、作ることだけでなく、伝えることも体験する
能動的な学びの実施	* 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
授業時間外の学修	* 授業前にアイデアソース集めや制作準備を行うこと（各回1～2時間程度） * 授業後に授業で説明を受けた素材・用具・技法について調べ、理解を深めると共に説明、制作時の記録を制作ノートにまとめること（各回1～2時間程度）
教科書・参考書	* 教科書：なし ・題材ごとに資料を配布する ・必要な用具・材料等について事前準備を指示する * 参考書： ・チャイルド本社発行『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編
成績評価方法と基準	* 定期試験は実施しない * 平常点（授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	* 制作時において学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * プレゼンテーションにおいて学生の発表毎にコメントを行う * 制作ノートはコメントを付与して返却する

2025年度 東京西学部時間割

課題等に対するフィードバック	
オフィスアワー	* CampusSquareを参照
留意事項	* 本科目は小学校教諭資格取得のための必須科目としての位置付けとなる。 * 授業参加に際し、各自エプロン（もしくは作業時に汚れても良い服）・色鉛筆・クレヨン・水彩絵の具を準備すること。内容については初回授業時に説明を行う。 * 授業への積極的な参加を期待する。課題を通して様々な素材に触れ、素材の特性や可能性等を広く探求すること。 * 授業内だけでは制作時間が足りない場合は、空き時間に制作対応を行うが、図画工作の授業以外でも図工室を使用するため、授業内に完成できるよう計画的に制作を進めること。 * 使用する道具や材料によって取り扱いに注意の必要なものもあるため、きちんと説明を聞き対応をすること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う。 ・定期試験は実施しない ・平常点（オンライン授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	図画工作
授業コード	AI230
英語名称	Elementary Drawing and Handicrafts 2
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	* 本科目は小幼コース学生対象とし、「図画工作1」の内容をふまえ、小学校教員として必要な造形表現に関する知識や技術を身に付ける。個人制作を通して素材と用具の理解や経験、表現方法の発見や発展へと導く過程を理解する。また、指導案制作や実習へ向け、図画工作のプログラムの立案、実施を考慮し制作内容を考える。
科目に関連する実務経験と授業への活用	* 10年以上に渡り、幼児・児童対象の造形指導の経験を活かし、幼稚園教諭を目指す上で必要な表現・造形における様々な表現技法や、造形指導時の幼児に対する援助方法について、指導する。
到達目標	* 到達目標は次の5つとなる (1) 児童の造形表現において適切な素材や技法を知り、道具の使い方を身につける。 (2) 自己の表現と共に、他者の表現の楽しさ・美しさを理解、共有できるようになる。 (3) 鑑賞能力と共に、プレゼンテーションの力を身につける。 (4) 小学校教諭として求められる造形・図画工作指導の専門的知識（応用・実践）を身につける。 (5) 身につけた専門的知識を教育活用するのみならず、効果的教育手法の開発を志向し、実践する思考を育てる。 尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。
計画・内容	第1回：ガイダンス 本授業の構成について 平面表現(1)「木版画による表現」 課題説明、素材・用具説明、アイデアスケッチ 第2回：平面表現(1)「木版画による表現」 制作 第3回：平面表現(1)「木版画による表現」 制作 第4回：平面表現(1)「木版画による表現」 制作 第5回：平面表現(1)「木版画による表現」 制作 第6回：プレゼンテーション 自作作品について発表・講評、相互鑑賞 第7回：鑑賞(1)「カードゲーム」低学年向け グループワーク 第8回：鑑賞(2)「美術鑑賞」中学年向け グループワーク

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第9回：鑑賞(3)「美術鑑賞」高学年向け グループワーク 第10回：立体造形 木工「こんな形があらわれた」 課題説明、技法説明、アイデアスケッチ 第11回：立体造形 木工「こんな形があらわれた」 制作 第12回：立体造形 木工「こんな形があらわれた」 制作・着彩 第13回：立体造形 木工「こんな形があらわれた」 制作・着彩・組み立て 第14回：立体造形 木工「こんな形があらわれた」 組み立て・仕上げ 第15回：まとめ プレゼンテーション、相互鑑賞
授業の進め方	* 制作の進行具合によって計画・内容は随時変更する * 個人制作、グループ制作を行い、様々な表現方法を体験する * 材料、道具は一部大学で用意するが、個人で材料、道具を準備し、授業で使用する場合もある * 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞を通し、作るだけでなく、伝えることも体験する
能動的な学びの実施	* 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
授業時間外の学修	* 授業前にアイデアソース集めや制作準備を行うこと（各回1～2時間程度） * 授業後に授業で説明を受けた素材・用具・技法について調べ、理解を深めると共に説明、制作時の記録を制作ノートにまとめること（各回1～2時間程度）
教科書・参考書	* 教科書：なし ・題材ごとに資料を配布する ・必要な用具・材料等について事前準備を指示する * 参考書： ・チャイルド本社発行『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編
成績評価方法と基準	* 定期試験は実施しない * 平常点（授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	* 制作時において学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * プレゼンテーションにおいて学生の発表毎にコメントを行う * 制作ノートはコメントを付与して返却する
オフィスアワー	* CampusSquareを参照
留意事項	* 授業参加に際し、各自エプロン（もしくは作業時に汚れても良い服）・色鉛筆・クレヨン・水彩絵の具を準備すること。内容については初回授業時に説明を行う。 * 授業への積極的な参加を期待する。課題を通して様々な素材に触れ、素材の特性や可能性等を広く探求すること。

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	* 授業内だけでは制作時間が足りない場合は、空き時間に制作対応を行うが、図画工作の授業以外でも図工室を使用するため、授業内に完成できるよう計画的に制作を進めること。 * 使用する道具や材料によって取り扱いに注意の必要なものもあるため、きちんと説明を聞き対応をすること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う。 ・定期試験は実施しない